

2009年度（平成21年度） ソニー幼児教育支援プログラム

継続的実践事例

～往復200km・東京遠足についての一考察～



平成21年7月4日(土) 完成直前の実物大ガンダム前にて

学校法人鮎澤学園 富士見幼稚園

<http://www.fujimi.jp/>

<http://blog.fujimi.jp/>

目 次

1. 当園の教育方針	1
2. これまでの主題の変遷	1
3. 今回の「科学する心」の捉え方	1
4. 東京遠足について	1
5. 年少組の東京遠足	2
6. 年中組の東京遠足	5
7. 年長組の東京遠足	9
8. 個別の東京遠足に関する保護者と子どもの意見・感想	13
9. 東京遠足全般に関する保護者の意見・感想	16
10. 気づき	18
11. 課題および今後の方向性など	19

1. 当園の教育方針

「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。」(学校教育法 第22条)

この基本的な目的をふまえて、当園では1977年(昭和52年)の創立以来、自由な環境における生活保育を30年以上にわたって実践している。

「自由な環境」で安心して遊び込むこと

当園では、先生(=保育者)の目が行き届いている(平成21年度は、園児8名あたり保育者1名)。しっかりとした見守りの中で、子どもたちは自由にのびのびと、そして一人ひとりの個性に合わせて遊び込む。もちろん「自由」とは、決して「放任」ではない。家庭のしつけができていて、集団生活でのルールを守られることが大前提である。

「生活保育」を通じて基礎を身につける

カラダとアタマを使う、良い絵を観る、良い音楽を聴く・歌う、バランスのとれた美味しいものを食べる、絵本を読んでもらう、人の話を聞く、世の中の動きを知る、世界に目を向ける…自由な環境のもと、当園での日々の生活保育を通じて、生きていくために必要な生活技能の基礎を、無理なく自然に子どもたちは身につけている。

補足

当園では、外部の幼児教育関連団体・企業が提供する能力開発教材または教育システムなどを一切利用していない。文字や数、英語などの学習、記憶力の向上などを目的とする指導も特に行っていない。これまでの経験から、小学校、中学校、高校…という長い目でみれば、幼児期における早期学習的な教材・教育手法の採用は、子どもたちにとってほとんど意味のないことであり、必要ないと考えているからである。

2. これまでの主題の変遷

当園では過去5回、以下のようなテーマで「科学する心」について継続的に考察してきた。

1回目(平成15年度)	当園を核とする地域の人々も含めた様々な環境における「科学する心」について
2回目(平成16年度)	「生活の中で科学を見いだす保育」を中心テーマに、様々な事例の列挙と記録
3回目(平成17年度)	「根っこから広がるいのちへのまなざし」にテーマを絞り込み、子どもたちの成長を観察
4回目(平成18年度)	当園流「育成スパイラル」の提示とその考察
5回目(平成19年度)	「ひらめき」「偶然性」などをキーワードに、育成スパイラルだけでは説明できない事象の探求

平成19年度まで5年連続で論文を提出していたが、昨年度は提出を見送った。手段が目的化しつつあったことが理由の一つである。論文を提出するために何らかのテーマを設定し実践事例に取り組むという一連の流れに少なからず違和感を持ったからだ。そこでこれまでの取り組みをいったん白紙に戻し、新たなアプローチを模索することとなった。その結果、一つの試みとして、当園独自の既存の保育活動に着目してはどうかという案が出された。科学する心との関連については、貴財団が提示する「科学する心」の捉え方を参考に、考察の結果としてその可能性に気づくことを目的としてはどうかという案も出された。

3. 今回の「科学する心」の捉え方

「科学する心」をあらかじめ想定・規定しないこと。これが今回の捉え方あるいは試みである。これまでのような意識的な枠組みの中で科学する心を見いだすという進め方ではなく、まずは先入観を捨てて、すでに当園において定期的・長期的に取り組んでいる諸活動のいくつかを選び、それらについて3年程度の幅で考察を進め、その考察の中で可能性としての科学する心を再発見したり、今まで気づかなかった新しいことを発見したりするという進め方を実践する。そこで今回は、当園のユニークな取り組みの一つである「東京遠足」の様子を複数年の継続的事例として位置づけて考察する。考察にあたっては主に当時のおたよりや担任・担当者のメモ、保育記録、保護者の意見・感想などを参照した。

4. 東京遠足について

園長が、園舎を結城市に建てるために実家の浅草から結城まで30回以上、自分の二人の子どもを連れて往復しており、その過程で田舎と都会の差を強く感じ、3～5歳児に都会を見せてあげたいという思いから、東京遠足という大旅行を思いついた。大人が初めて海外旅行に行く時と同じような緊張感を子どもは感じるのではないかと。それが33年前のこと。当時、当園の保護者の

多くは、一日で東京から結城に戻るのか半信半疑で結城駅に子どもを迎えに行ったとのこと。これまでの通算で120回以上におよぶ東京遠足は、今では当園の特徴的な遠足として位置づけられている。将来、子どもたちが受験などで東京に行く時、大都会の雰囲気に飲まれないよう平常心を保てるようになってほしいという思いも含んでいる。

ここ数年（平成18年度1学期～21年度1学期まで）の学年別の訪問場所と実施月は次のとおりである。

	訪問場所	実施月
年長組	葛西臨海水族園、お台場、浜松町（ライオンキング観劇）、横浜（中華街など）	6月 7月 3月
年中組	国立科学博物館（ロボット博）、浅草、両国、東京ドーム	7月 11月 1月
年少組	上野動物公園、国立科学博物館	3月

なお、今回は継続的实践事例として、単年度での園全体の取り組みではなく、東京遠足を切り口に、入園から卒園までの3年間をひとつくりとして園全体の活動とした。

5. 年少組の東京遠足

年月日:平成19年2月21日	はなのくみだより 平成18年度第16号 より
担当者:担任F/副担任S	内容:遠足前のお知らせ

花の組（年少組）の子どもたちにとって初めての電車遠足。こどもかいの練習で疲れている子や、気温の変動や乾燥などでかぜをひきやすい環境になっていますが、3学期の締めくくりとして全員そろって楽しい遠足になるよう体調を整えておきましょう！

年月日:平成19年2月27日	はなのくみだより 平成18年度号外 より
担当者:担任F/副担任S	内容:遠足についての追加情報

3月1日の遠足は、テレビ東京の撮影が入ることになりました。番組名は「感涙！時空タイムス」です。テーマは「はじめての動物園」です。番組リポーターはビビる大木さんです。

年月日:平成19年2月28日	はなのくみだより 平成18年度第17号 より
担当者:担任F/副担任S	内容:遠足直前のお知らせ

上野動物園遠足について

昨日の号外にもありましたように変更等がありますのでご確認ください。服装は公式の場ということで、園ズボンの下のスパッツ、ズボン等ははかないでください。体調のすぐれない子で事前にお話を受けている子に関しては白タイツを考慮していますが、できるだけ避けてください。当日は、スタッフさんの方でも多少の寒さ対策を考えてくださっているようです。

また、園服のそで口、ボタン、帽子のゴム、靴の安全なども最終確認をお願いします。キーホルダーなどはひっかかると危険ですので、カバンからはずしてください。

朝早く、帰日も例年より遅くなりますので、子どもたちも疲れるかと思いますが、「コマまわし」に「なわとび」に、そして「こどもかいの練習」に…とがんばってこられた花組さんだからこそ、この特別遠足がめぐってきたのだと思います。

心に残る、楽しい遠足になるよう努めてまいりますので、お家の方のご協力、よろしくお願いいたします。

客車にて電車のマナーを確認！

絵本借りの後、当園の附属施設であるスハフ42型（客車文庫、客車劇場（人形劇）などで使用）の中で車中をどのように過ごしたらよいか、また、遠足全体の諸注意も話しました。覚えているかな？ お家でもお子さまに聞いてみてください。

※パンツを完全に脱がないと排泄ができない子は練習をしてきてください。

※男の子はパンツを全部おろさないでわきからできるように練習してください。

年月日:平成19年3月2日	はなのくみだより 平成18年度第18号 より
担当者:担任F/副担任S	内容:実際の遠足の様子

行ってきました！大遠足

朝7時から夕方5時45分まで…なんと10時間以上の大遠足に行ってきました。お休みのお友達がいて少し残念でしたが、お天気に恵まれ無事に帰ってくることができました。

いってきまあ～すと元気にご挨拶をし、お家の方に手を振って乗り込んだJR水戸線。お約束を守り、上手に乗車することができました。が…「もう動物園に着く？」とすぐに聞かれ、「大丈夫かなあ」と少々不安にもなりました。

宇都宮線に乗り換えるとカバンを棚に上げ、長い電車の旅が始まりました。しばらくは、ほとんどの子が足をじっとそろえて座っていましたが、靴を脱いで窓に向かい、じーっと外を眺めはじめる子がでると、ハンカチ、ティッシュの見せ合いっこ、じゃれあいっこがはじまり、マナーを守りながらリラックスすることができました。近くに乗っていた大人の方に「どこへ行くの？」「ど

この幼稚園？」と声をかけられると、ハキハキと答えることができました。みんながとてもよく座っていたので、他のお客さんからもほめられたり、降車する際にカバンを棚から下ろして背負わせてくださったりする方もいました。朝早かったせいか眠ってしまう子もいましたが、目が覚めるとパッと切り替えることができ、電車の旅はどの子も100点！！でした。

上野動物園に到着するとテレビ局の方がお迎えに来てくださいました。出演者の方やスタッフの方々がそろそろ大人がたくさんまわりについて、子どもたちは緊張しているようでした。が、しばらくすると気軽に話しかけたりツッコミを入れたりするなど、とけ込むことができました。さすがふじみっ子！芸人のビビる大木さんが「隊長」となり先頭に立ち、芸人の石田靖さんが先生役として後ろから付き添ってくださり、600回以上上野動物園に來園しているという佐々木さんという方が解説やクイズを出してくださいました。芸人に引率され、プロのカメラマンにレンズを向けられ、次々と動物を見て回る子どもたち。とても不思議な感じでした。きっと一生に一度の特別遠足になったのではないかと思います。疲れの見られる子も途中で出てきましたが、全員が自分の足で歩くことができました。

パンダさん大好き

上野動物園が初めての子も、来たことのある子も、「パンダかわいい〜」とパンダ舎を通っている時は特に目がキラキラしていたように思います。トラ、ライオンは「こわい」となかなか近づけない子もいましたが、その姿もまたかわいらしく思いました。ゴリラは印象に残ったようで、「こ〜んな動きしてたよ！」と脇腹をかくまねを何回も見せに来る子もいました。ペンギン、ゾウ、サルはエサやりをしているところを見ることができました。ペンギン歩きのマねをしたり、ゾウのうんちに興奮したり、サルの親子を見て自分と重ね合わせてみたり…と様々な反応がありました。

こども動物園

実際に触れ合えるとあって、積極的にエサをやりに行く子、「こわい」と逃げる子と二つに分かれました。ここでは「この毛は何の動物の毛でしょうか？さがしてきてください！」というクイズが出題されました。元気に駆け出して行く子どもたち。その他にも数カ所でクイズがありました。正解すると賞品があったのですが、みんなで考えてもらったものなので、みんなで共有することになりました。

出演者さん、スタッフさんに「さようなら」をして、さあ次は新幹線（しかも指定席！）。歩き疲れている子、手が温かくて眠たい子、ママが恋しくなってしまった子…限界の状態だったにもかかわらず、ほとんど泣く子も出ず（一時的にぐずる子はいましたが）、本当に最後までよくがんばりました！お楽しみの新幹線では行きに乗った電車より元気にしていました（速かったね！）。

結城駅に着き改札を出ると素早くお家の人を見つけ駆け出す子どもたち。どの子も安心した顔をしていました。私も、無事に到着することができてホッとしました。

公共の場に出て、動物たちと出会い、たくさんの人々の中で一日を過ごし、様々な経験ができたかと思えます。これも、朝早くからお弁当をつくり、お見送りしてくださったお家の方のおかげです。お弁当は、電車の中でず〜っと気にしている子、うれしそうに見せてくれる子などいろいろでした。子どもにとってのお守りのようでした。

ご協力ありがとうございました。

年月日:平成20年3月24日	はなのくみだより 平成19年度第23号 より
担当者:担任Y	内容:実際の遠足の様子

行ってきました！上野動物園遠足

昨日の天気がウソのように、まさに遠足日和。東京での最高気温20度、天気にも恵まれ、花の組13名、年中組10名、年長組6名、小学生3名、中学生1名、計33名の大行列が元気に結城駅を出発。

結城〜小山までの電車は、ほとんど立っている状態。揺れても転ばないように、しっかりとつかまっていたり、足を開いてしっかりと立っていたりする姿が見られました。小山駅に到着すると、大勢の人にまぎれて階段を登ります。一番端上がるのですが、ズムズに上がれる子、一歩ずつゆっくり上がる子、棒につかまって上がる子などさまざまでした。下るのも同様、1年・2年の成長の違いはとても大きく感じられました。トイレ休憩をして次の電車に。時間帯がよかったのか、あまり混んでおらず、ボックス席に全員座ることができました。緊張して乗っている子、おしゃべりを楽しんでいる子、景色を見ている子とさまざま、長い時間なのでアメのおやつを食べました。「まだ着かないの？」「車のほうが速かったよ」という声が聞こえはじめ、電車はようやく上野駅へ到着。

駅を出ると、人！人！人！ 天気も良かったからか、上野動物園の入り口にも行列が。団体入り口から入り、一番にパンダのところへGO。朝一番なので、パンダも起きてエサを食べていました。無言で見ている子どもたち…かわいらしかったですね。ここでトイレ休憩をして、やはり年少とのペースが違ってくるので、小学生、年長、年中と別行動をすることに。二人組になり、M先生の後を追って歩きました。ライオンやトラは、ガラス越しに間近で見られるので「こわい」「ヤダこっちはこないで」と後ずさりをする子も。大きな骨付き肉を食べていました。

ゴリラは、後ろ姿を見て「おしりだあ」と大きなおしりを見て楽しんでいました。ラッキーなことに間近で寝ころんでいる姿も見ることができました。ペンギン、アシカでは、上手に泳いでいるところや「あれがお家なの？」と小さな岩の家に驚いていたようです。サル山では「赤ちゃんがいる」とサルの子どもを見つけたり、木のてっぺんまで登り力強く揺らしているボスザルが見られたりなど、様々なサルを目で追っていました。

そろそろ歩くペースも遅れだし、11:15頃、昼食をとることに。園長グループはすでに昼食をとっているところでした。好きなテーブルに座ったのですが、どうしてもシートを使いたい子（2名）は、テーブルのとなりで食べることに。「見て！」とおいしそうなお弁当をうれしそうに見せてくれました。食べている間に一人ずつお土産をどれにするかカゴの中から選びました。また、周りに飛んでくるハトたちにびくびくしてしまう子、自分のごはんを少しあげる子、どこまでも追いかけていってしまう子…といういろいろでした。先に終わった子は、目の前の不忍池にいる白鳥、ペリカン、カモ、カメなど様々な生きものたちを見て待つことに。

さあ次の動物たちは？ 午後は気温が高く、なんだかじっと動かなかったり寝ていたりすることが多かったです。さらに子どもたちも緊張の糸が切れ、先頭のM先生がいるにもかかわらず、まったく違う方向へ遊びに行ってしまう子どもたち。前を見て歩くというより自分の興味のままに目を向け、進んでいってしまうようです。1、2メートルも進まないうちに「M先生はどこか？」とクイズを出しながら進みました。

12:32、園長グループと合流し、モノレールに乗りました。1分30秒の短い旅でしたが、下に見える人たちが手を振ってくれたり、壁に動物の絵が描いてあったりと楽しめました。そろそろ時間なので、水分補給をし、上野動物園を後にしました。さあ、何か音楽が聞こえてくる！ということで見に行くと、マリimbaを使った大道芸が。しかし、時間で決められているため終了となってしまいました。

次の大道芸を探して桜並木を歩きます。つぼみが大きく膨らんでいたり、ちらほら咲いていたりする木もあったのですが、子どもたちの視線はお花見に用意されていた大きなゴミ箱や、お花見に来ているお客さん。「かわいい〜」と言われたり、ガチャピンのお兄さんが踊ってくれたり、初めてのものを見るかのような視線で釘付けでした。

やはり園長のグループには追いつけず、また「M先生はどこか？」クイズが始まり…とその時、大道芸の旗が！ Laby（ラビー）というジャグリングをするお兄さんでした。一番前に座り、様々な技を目の前に驚く子どもたち。園長グループも合流し、ピンク色の園服や子どもたちの素直な反応も目立ったのか、いつの間にか周りには人だかりが。とても楽しい時間となり、電車の時間が！

さあ急ごうと急いだかいもあり、帰りの電車でもみんな座ることができました。あとはお家の人が待っているところまで帰るだけ！ すぐ眠りにつく子も。誰も最後まで自分の足で歩くことができ、無事に帰ってくることができました。この遠足が成り立つのは、やはり毎日園庭でたくさん遊びこんでいるからだ、終わってみて実感しました。どんなお土産話が聞けたでしょうか？ またひとつ、良い思い出ができましたね。

同行した年中組担任Fの感想

当日の年中組からの参加者は10名と予定より少ない人数でしたが、元気に行ってくることができました。行きの道中は、花組さんのお友だちと二人組でギュッと手をにぎり、少しお兄さん・お姉さん気分で動物園を目指しました。お天気も良く、一番はじめに食事のパンダを見てからは子どもたちの足取りもエンジン全開！ 一気に園内を見てまわりました。途中からは花組さんと別コースも見学しました。ムツと気温の高い両生爬虫類館で大きなワニを見たり、薄暗い夜の森・小獣館ではコウモリやヤマネコ、ハリネズミなどを見たりしました。暗いせいか少々ドキドキしていた子もいたようです。昨年度参加したお友だちもたくさんいたので、10時半には「お腹空いた〜！」との声が聞こえはじめ、11時過ぎにはお弁当を美味しくいただきました。お土産を選び、楽しみにしていたモノレールに乗って、再び目を輝かせて見てまわりました。帰り際に見た、大道芸（ジャグリングなど）では「すごーい！」と目を丸くし、その素直な喜びの声にいつの間にかたくさんのお客さんが周りに集まってきました。

卒業生、OBOGのお兄さんとお姉さんと一緒に歩いて疲れているだろうと思いましたが、帰りの電車の中では最後までおしゃべりが盛り上がり元気いっぱいの子もいました。お家ではどんなお土産話が聞けましたか？ 今回も無事に行ってくることができました。ご協力ありがとうございました。

年月日:平成21年3月23日	はなのくみだより 平成20年度第19号 より
担当者:担任A/フリー担任S	内容:実際の遠足の様子

楽しかったね！上野動物園遠足

3月に入り「あと何回寝たら遠足なの？」と子どもたちからそんな声が聞かれるようになりました。上野動物園遠足は年少組最後のイベントでもあり、とても心待ちにしていました。数日前より動物園の話しや電車内でのマナー、二人組になって歩く練習をするなど、心の準備をしてきました。天気予報を気にして「明日は雨って言うたよ」と心配する子も。「晴れるようにてるてる坊主をつくって、お空にお願いしようね」そんな思いで当日をむかえました。

次々に結城駅に集合する子どもたち。笑顔いっぱいの子、緊張している子、不安そうな子、早起きした子…いつもとは違った子どもたちの姿が見られました。花の組15名、年中組2名、卒業生4名、小学生2名、計23名の参加です。空模様が気になりますが、「行ってきまーす！」お家の人に見送られ、元気に出発しました。さあ、これから大冒険の始まりです。

水戸線の電車内は少し混んでいましたが、子どもたちの姿に席を譲ってくれる人や声をかけてくれる人もいました。「どこに行くの？」「動物園！」と元気よく答えていましたね。小山駅の長い階段の上り下りも上手に歩き、余裕を持って宇都宮線へ乗り換えできました。電車内もすいていて、ボックス席に全員が座れました。外を見るといつの間にか雨が…。そんなことは子どもたちにはまったく関係なく、友だちとの会話を楽しんだり、おやつを食べたり、上野までの長い道のりもとても上手に過ごすことができました。

上野駅に到着。改札口を出ると外は本格的な雨。すぐさま雨具を取り出してかぶり、国立科学博物館を目指します。歩いて5分くらいの距離でしたが、まさに「アメニモマケズ」の状態です。園長の背中を追いかけ、一生懸命ついていきます。こんな大変な状況でも子どもたちは「キャーキャー」言いながら楽しんでしまいます。子どもたちの雨具の出し入れや動きの速さには目を見張るものがありました。

科学博物館ではパンダの剥製が公開されており、上野パンダの37年の歴史のビデオを見るなど、子どもたちは興味深く見学することができました。カンカン・ランランからリンリンまでの15分間のビデオですが、日頃の保育室のように自分でイスを移動して静かに見入っていました。館内は日本館や地球館のフロアに分かれていて、日本館では日本に住む生き物たちや恐竜の骨、大昔の人間の生活や進化の様子などが展示され、目を輝かせていました。

シアター360では、球の中に入ったように360度全方位より映像が映し出され、迫力ある画像と音響に思わず泣き出してしまいうちも数名いました。8分間の映像ですが、自然や地下の様子など、まるで地球内部にいるような感覚になり、子どもたちも驚いた様子でした。朝も早かったせいか「お腹すいた〜、動物園はまだ？」の声が…。

11時、昼食は館内にあるラウンジでいただきました。休日ということもあって混み合っていました、空いた席に順番に座り、水分補給とおにぎりを食べました。子どもたちの願いが通じたのか、雨はあがってしまいました。さあ、次なる目的地、動物園へ出発です。向かう途中では野口英世の銅像に出会いました。

上野動物園についてやって来ました。最初はゾウを見学しましたが、その大きさにビックリ！長い鼻でなにやら土をすくっていましたね。子ども動物園では動物たちと触れ合えますが、苦手な子は園長と別の動物見学へと二手に分かれました。ヤギに触った子はとてもうれしそうです。そう、モノレールにも乗りました。大喜びで窓からの景色を楽しんでいましたが、あっという間（1分30秒）に到着。もう少し乗っていたかったですね。アシカ、ペンギン、トラ…楽しみにしていたゴリラも間近で見られました。手足を伸ばして体を動かす姿に「ストレッチしているよ」と言う子も。たくさんの動物を見学することができました。

そろそろ帰る時間。楽しかった上野動物園ともお別れです。いつの間にか空は晴れ渡りボカボカ陽気、午前中の雨がまるで嘘のようです。でも、雨のおかげで科学博物館+動物園という今までにない欲張りな遠足が実現しました。上野駅にもどると電車を待つ間に水分補給と、あわてて食べたおにぎりの残りを口に入れ、たちまち元気復活！です。

帰りの電車の中では心地よい震動で眠りにつく子が何人かいました。きっと早起きしたのでしょうね。園長からは大好きな甘栗のおみやげを分けてもらいました。

今回の遠足は年少組にとって1年間の集大成でもあります。4月より集団生活を学び、心身を鍛え、自分で考え行動できるよう、遊びをおして積み重ねて来ました。敏速に行動がとれ、自分の足で力強く歩き、たくましく成長してくれたことを心から嬉しく思いました。

初めての電車遠足に、お家の人も心配で時計ばかり気にしていたのではないのでしょうか。一回り大きくなったと感じられたことと思います。どんなおみやげ話が聞けましたか。ぜひ感想をお聞かせください。それにしても、子どもたちの体力には驚きばかりでした。

6. 年中組の東京遠足

年月日:平成20年1月21日	ふじみだより 平成19年度第51号 より
担当者:担任F	内容:実際の遠足の様子

行ってきました！お年玉遠足（ロボット博）

寒い日となりましたが、駅にやってきた子どもたちは元気いっぱい！ワクワクしている子、緊張気味の子、お家の人と離れるのが寂しい子…一人ひとり様々な気持ちで改札を通過していきました。お友だちとしっかり手をつないで水戸線に乗り込むと「あたたか〜い」いつの間にか座席を確保して座っている子もいました。宇都宮線への乗り換えもスムーズにすませ、上野まで落ち着いて過ごすことができました。窓から景色を見るときは、きちんと靴をそろえる、大きな声をださない、お友だちと仲良くする…保育室で約束したことをみんな覚えていたようです。古河に着くころには「もう着く？」とはじまり、久喜に着くころには「長いね〜」と上野までの道のりを遠く感じていました。

現地に到着すると、待っていました！と元気に歩き出す子どもたち。園長を先頭に約40人の園児集団がぞろぞろぞろ。やはり、赤園服は目立ちますね。ロボット博は前日にテレビ放映されていたとのことで大盛況。予想以上の人混みの中、保育者は赤園服の園児を必死に視界に入れて観てまわりました。大人の波にのまれながらも、子どもたちは「すごーい！」と歓声を上げ、様々なロボットを真剣に見ていました。現在テレビ放映中のアニメから、世代を超えたアニメのロボットの展示では「あぁ〜！知ってる！」と男の子たちは大興奮でした。女の子たちは古風な人形に興味を示し、モニターを見てみるとなんとカラクリ人形に驚いたりもしました。CMにも登場しているASHIMOのショーは全員座って観ることができました。最新のロボットがお茶を運んで、家の人からの頼みごとをこなしていくのを目を輝かせて見ていました。私たち大人は本当に驚き感心してしまいますが、生まれてから4、5年の子どもたちにとってはこれからこのような機会が身近に、そして当たり前になっていくのでしょうか？

ロボット博を後にしてからも、国立科学博物館内を見学しました。地球館では鳥類・魚類・昆虫類などの展示、人間の進化の展示を見たり、たんけん広場では科学遊びを楽しんだりしました。不思議な仕組みに目を丸くしている子もいました。

たくさん遊んだ後は、お楽しみの昼食。駅弁は、混雑の中買いに行くのが困難だったので館内のラウンジで軽食を買いました。お弁当組とともに恩賜公園の噴水のそばで美味しくいただきました。食後は公園周辺を園長の案内で散策しました。レストラン組は、自分の好きなものを注文してお店の中で楽しくいただきました。

その後、合流して国際子ども図書館へ。たくさんの本が並ぶ中、お気に入りの本や珍しい本を見つけて真剣に読んでいました。あれ…？ 韓国語のぐりとぐらを読んでいる子もいましたよ。

動物園の近くでは大道芸人のmotoさんが富士見幼稚園の子どもたち全員に、アートバルーンで干支のねずみをプレゼントしてくれました。その後も電車の時間までバルーンでイリュージョンや人気のキャラクターを作ってみせてくれました。

たくさん歩いて、たくさん観て、たくさん食べて、たくさん感じ・吸収して…帰りの電車の中ではぐっすり寝てしまう子もずいぶんいました。結城駅でお家の人を見つけると、どの子も一目散！ お家ではどんなお土産話が聞けましたか？

年月日:平成20年11月25日	かわもりだより 平成20年度第12号 より
担当者:担任O/フリー担任W	内容:実際の遠足の様子

天候に恵まれた浅草遠足！

寒い日が続いて、遠足の日がとても心配でしたが、風もなくあたたかな一日であったことはなによりでした。朝7時10分、結城駅、8割の子が赤い園服に身を包み立ち並んでいました。7時20分、トイレを確認し、ごあいさつをしていざ出陣！年中組21人（全員）、年長組4人、小学生4人、計29人、引率者9人の旅。階段を上って改札口に入り、階段を下りてホームに並ぶ。階

段で足を左右交互に出せない子が半数いて、思いの外時間がかかった。フェンス越しにママやパパがいて手を振る子どもたち。電車が入って先生たちにフォローされながら乗り込む。ドアが閉まって電車は走り出す。今生の別れのような思いで手を振っていたのは子どもたち？それともパパやママ？

さあ、ここからは、ひとまわり大きな世の中に出て、実体験をとおして社会性やマナーを知るトレーニングです。先生たちも真剣勝負、子どもたちをお預かりして、いつもの3倍の気配りで接しています。結城から小山まで7分間、混んでいるので立って乗る。揺れた時にたおれないよう足をチョット開いて、まわりの先生たちにつかまって、子どもたちの緊張感が伝わってくる一時でした。小山で乗り換え、ボックス型のイスに4～6人ずつ座る。ランドセルを網棚にあげてもらい、ちょっとリラックス。コーナーごとに先生がついて様子を見ながら1時間半を過ごす。おしゃべりをしたり、外の景色を見たり、おやつを食べたり、手遊びをしたり、時折ハイテンションになり声が大きくなってしまふ子があると、みんなで「シー！」後ろを振り向くときは靴を脱ぐ、立ったり座ったり歩かぬ、ケンカをしないお約束もなんとか守れましたね。上野でトイレタイム、そして地下鉄へ。

「先生、地下鉄って何？」

「もぐらの電車だよ」

「もぐらが運転してるの？」

「もぐらの絵が描いてあるの？」

「地面の下を走ってるんだよ」

「暗いの？」

「電気がついてるから明るいよ」

???だらけの地下鉄に乗った10分間はみんなワクワクドキドキがいっぱいでした。地下のホームから外に出ると「わー浅草だ!」「ここが浅草?」子どもたちにとっては大人の海外旅行に匹敵するくらいの感動なんだろうなあとしみじみ思う担任。吾妻橋の上から隅田川と水上バスを見学。アサヒビール本社ビルのとなりのオブジェを見て、

「ビルがビールの泡になってる？」

「あれは金色のたましい？」

浅草に入り大きなわらじ(平成20年10月26日山形県村山市より奉納)の前で記念撮影をしていると「あらかわいい」「幼稚園生?」「ランドセルしょってるのね」などという方々がいきなり集まり、ふじみっ子はたちまち大スターに…。昔のお店が建ち並ぶ奥山風景に入る。目をキョロキョロさせてあっちを見たりこっちを見たり、赤い園服の列が蛇行して通ります。包丁やさんに掛けてある大きな包丁と、ももたろうをかけた話、寄席に行ったような笑いがありましたが、話しの落ちがどのくらい分かったかな?

ちょうちんやさんでは来年のふじみまつりに使うため園長が名入りを注文したところ、即実演。そのカッコ良さに拍手がわく。お買い上げの際は三三七拍子で締めた。その他、あめ屋、千代紙屋、ひも屋など、子どもたちは夢中で見て回る。まわりのお客さんはその無邪気な姿に目を和ませている様子でした。浅草寺でお参りをし記念撮影。11時ランチタイム、お客さんがいっぱいだったので敷物を半分にして広げ、すみやかにいただきました。おにぎりはラップに包んであり手軽に食べられてよかったです。遠足の前日、弁当について話していて、なるべくコンパクトにということで「果物はビニール袋(チャック付き)に入れてね」おにぎりはラップかアルミに包んでなど、実物を見せて説明していたところ、「先生、おかずは?」の声。

「そうね、なくてもいいかな…どうしても食べたいものがあつたらおにぎりの中に入れてもらうのはどう？」

「うーん、そうだね」

という話し合いがありました。

子どもたちのほおぼるおにぎりを見ると、肉だんご、玉子焼き、ウインナーなどなど、ママによく頼みましたね。シャケ、コンブ、塩だけのおにぎりもとってもおいしそうに食べていましたよ。どのおにぎりもママの愛情がたっぷり。遠く離れていると、よりその親心がおにぎりをとおして子どもに伝わっているように思われました。食後はハーレーが十数台並んでいるの見学、とくに男の子が目くらんさせていました。五重の塔をバックにはいパチリ!

次はお待ちかねのお土産選び。あちこちの店をまわったが、どこもちょっと高め。常磐堂の雷おこしが一番手頃だったので買うことにした。「これなら浅草名物だし、お家に帰って家族みんなで食べられるね」M先生の一声に納得。一人ひとりランドセルに詰めてもらうと一安心。

花やしきの前を通り、ジェットコースターやぐるぐる回っている遊具が見えて、見ているだけでドキドキしている子もいました。花やしきを抜けてすぐ、突然、忍者が現れてビックリ! ちょっとのろけた若めの忍者が二人、子どもたちの反応に応じてくれたので大喜び。次に出くわしたのはとってもキレイな舞妓さん二人、ぼかーんと口を開けて見とれてしまう。にぎやかな仲見世をまたまたキョロキョロしながら蛇行歩き…。

今回の遠足が浅草でよかったと思う担任。道行く人だれもがあたたかい目で見守ってくれて、かわいいねと言いつつ、列をはずれた子を寄せてくれたり、道を譲ってくれたり、下町のいきな姿の良さと明るさと、あつたかさが子どもたちの心にも伝わったことと思います。雷門で記念写真を撮り、浅草文化観光センターの前でからくり時計を見学、縦4メートル、横5メートルの中から音楽とともに白鷺の舞と金龍の舞、最後に時計が上にあがって子どもの神輿が出てきます。興奮していっしょに踊り出す子もいました。この後は帰り道、地下鉄に乗り上野へ。宇都宮線小山まで、残っているお茶やくだものを食べ、一息入れる。お昼寝した子は7人、水戸線に乗り換え、結城駅到着午後3時44分。お迎えに来てくれたお家の方に抱きつく子どもたち。いつものケンカやわがままも言わずよくがんばりました。お家で待っていた方々も一安心。こんな貴重な体験を年中組全員参加で出来たこと、担

行はともうれしく思っています。年長さん、小学生のお友だちもお疲れさまでした。Mさん、Kさん、お手伝いありがとうございました。

年月日:平成21年1月26日	かわもりだより 平成20年度第18号 より
担当者:担任O/フリー担任W	内容:実際の遠足の様子

行ってきました！ニクーリンサーカス

いつもながら天候に恵まれたことはなによりです。結城は曇りでどんより曇り、雨も降ったとのこと。遠足一行は8:11、電車の中はほっかほかで暑いくらいでした。4つの電車を乗り換えて水道橋で改札口を出ると、外はずすいなという気持ちでした。宇都宮線内で、

「先生、これは浅草に行くときに乗った電車と同じだね」

という子がいました。体験の積み重ねがいかに大切かを感じる一言でした。

駅を出て横断歩道をわたるとすぐ目の前がドームシティ、わくわくどきどきしている子どもたち。入場する前におにぎりを一ついただきました。10:40会場へ。指定席へ案内される。トイレをすませて11:00、ニクーリンサーカスのはじまりはじまり！

きれいな衣装で全スタッフでのオープニング、プログラムの①は「ラート」。ジャーマンホイールといわれる体操器具をつかっての演技。回転、旋回し、跳躍をミックスさせてスピードあふれるパフォーマンスを見せてくれました。

②「綱渡り」。空中高く張られた一本のワイヤーの上を踊るようなステップで自由自在に渡る。とてもワイヤーの上で演じているとは思えない離れ業の連続でした。☆三輪車に乗ったピエロ登場でホッとすると子どもたち。ホテルをとりあつめていくうちに三輪車がホテルの光でとってもきれいに輝きましたね。

③「愉快な犬たち」。スピーディでコミカル、愛情いっぱい犬たちに接し、ともに演じる調教師もまたステキでした。

④「ジャグラー」。悪魔を追い払う呪術師の役でボールジャグリングが繰り返される。ジャグラーが操る球体は命を持つかのように空中を飛び交い、互いを操り、操られるかのように見事な動きを見せてくれました。☆ピエロが再び登場、何も入っていない紙袋にお客さんがボールを投げ入れるふりをすると、いつのまにかたくさんボールが入っていました。ふじみっ子も一生懸命投げ入れるまねをしたら、大きなボールに変身？不思議ふしぎのマジックでしたね。

⑤「アクロバット・デュオ」。「あやうげな」恋人たちをテーマとした男の人と女の人の危うげに見えるバランス感覚で、繊細な平行を保ち、優雅でドラマチックに美を表現するバランスアクトでした。

⑥「空中アクロバット」。天井から垂れ下げられた2本のストラップを握りしめ、空中高く舞い上がりながらバランス技をみせる。体をひねりながら舞い上がる美しさはまるで空間を駆け上がる独楽を見ているようでした。☆ピエロ3回目の登場。犬の散歩をしているのですが、よく見ると犬はお人形。でも生きているかのようにとても上手に操るのです。子どもたち、気づいたかしら？

⑦「イベリアの太陽」。長い跳躍版を駆使して行われる集団アクロバット。跳んだりねたり、側転、地上回転の連続、空中転回に後転など、とにかくスピードとチームワークがよく、サーカスコンクールでの受賞歴があるとのこと。拍手、歓声がわきました。サモエード犬とハスキー犬も登場し、共演しました。

ここで一部終了。15分の休憩。2部はきれいな赤い羽根をつけた女の6人のダンスでスタート。

⑧「ソロ・トラベーズ」。空中でとても気持ちよさそうにブランコをする女の人。富士見幼稚園のエノキのブランコが大好きな子は、この女の子の気持ちがよくわかるんだろうなとふと思いました。演技は天空に舞うバレリーナのようでした。☆ピエロ4回目の登場。大きな箱の中にケーキが…おいしそう！食べようとしたら突如消える？ピエロさん噴水のような大涙。そしておどろくと髪の毛が立つ。「いい髪型ですね！」とさけぶRさん。

⑨「ロシアンパー」。二人の人が支える平均台のようなパーの上を跳躍で空中へ高く飛び出し、回転や旋回する技を演じる。とても高く飛ぶのでパーに見事に着地すると拍手がわきました。

⑩「熊のサーカス」。熊さんが花かごを持って散歩（二足歩行）したり、逆立ち歩きをしたり、ジャンプにでんぐり返し、なわとびやダンスなど、楽しそうに演じてくれました。動物が出てくると子どもたちはとても親しみを持って見ていました。熊はロシアでは「ミーシャ」の愛称で人々に慕われ大切にされているそうです。☆ピエロ5回目の登場。さきほどのケーキがやっと見つかりさあ食べようとする、ピエロ仲間の女の子たちがやってきたので順番に分けてあげる。最後に一つ残ってホッとして食べようとする男の子がきてほしがるのであげてしまう。一人になってまた大粒の涙が噴水のように出る。しかし、先ほどケーキが消えたときのようにマジックをかけるとチキンが現れます。それを見ていたピエロ仲間がまた追いかけてくるので、ピエロはチキンをもって逃げていく…。サーカスになくてはならないピエロさん、大人気でした。最後のストーリーは笑いあり涙ありで、子どもたちを十分に楽しませてくれました。

⑪「空中ブランコ」。サーカスのドラマのフィナーレを飾るのは華麗な空中ブランコ。フライヤーとキャッチャーが空中で繰り返されるダイナミックで力強いコンビネーション、スリリングで興奮を呼びます。最後の一番難関の技が失敗したようでフィナーレへと移行…興奮がさめやらぬまま会場を出る。最後が「残念だったね。おちちゃったね」と子どもたちに話しかけると、

「うん、そうだね」

「でも次は成功するよ」

と言われ、逆に子どもたちに励まされた気持ちでした。

13:10サーカス終了後、ドームシティ内をひとまわり見学しました。そのあと水道橋駅に向かい電車に乗り両国駅で降り国技館へ行きました。入り口のところに人がたくさん並んでいて、おすもさんが入場していくのを待っていました。その列にふじみ

っ子たちがいっしょに並び、力士が通過するたびに「おすもうさんガンバって！」と声援しました。雅山がニコッと笑ってこちらを向いてくれました。もうそろそろタイムリミットで、列から出て帰ろうとしたところにタクシーが停まり黒海が出てきて、ふじみっ子たちの真ん中を通り抜けていきました。おすもうさんを生で見るなんてめったにできないかな？家に帰って、そのおすもうさんがテレビに出ていたらより親近感がわくことでしょ。

上野駅に着き、電車に乗り込みみホッと一息。残りのおにぎり、くだもの、お茶をいただく。おやつにせんべい、チョコ、おすもう顔のアメもいただきニコニコ。サーカスとおすもうさんとの出会いに興奮さめやらぬまま結城駅にたどり着く。16:33、お父さんお母さんに飛びつく子どもたち。家に帰ってどんな話をしたのかしら？

年月日:平成21年7月6日	ふじみだより 平成21年度第2号 より
担当者:園長	内容:実際の遠足の様子

葛西臨海水族園に行ってきました！

東京遠足に行ってきました。本人の行きたいという気持ち、親の気持ち、天候の後押しがあって実現しました。毎日自主的にあそぶ中で培われる体力、気力、精神力が試される遠足です。

水族園ではマグロ、カツオなどを見ました。生きたサメとエイは手で触ることができました。サメはザラザラしてまさに鮫肌でした。生まれて初めて魚に触れた子どもは大満足でした。

隣接する観覧車にも乗りました。高さ110メートルは高い！大人と子どもの5人で乗りました。その後、12時30分の上水バスの出発時間に間に合うよう、急いで走ってぎりぎりセーフでした。水上バスから、潮風公園にある等身大ガンダムやレインボーブリッジ、フジテレビ本社などが見えました。「ガンダムのところに行きたい」と子どもたち。お台場到着後、同行した小学生たちに先導をうながすと一本道を走り出し、木々の間からガンダムが現れると、疲れ気味だった子どもたちは嘘のように元気いっぱいになりました。ポーズをきめて記念撮影をして台場の駅まで7分、そこからゆりかもめに乗って、ライオンキング（四季劇場）のある日の出桟橋を眺めながら新橋駅に着きました。同行した数人の年長さんはすでにライオンキング遠足（平成21年6月2日実施）で来ているので、そのときのことを思い出していたようです。

このハードな遠足は、年少組のときの園生活が土台になっています。昨年度の雨の日の遠足（平成21年3月21日実施）の体験があるので、そのことも考慮して今回の遠足を実施しました。

上野駅で発車までの15分間に、ぶっかき氷と甘栗を買いました。残っているおにぎりをいただく子もいました。

とてもぜいたくな遠足ができたと思います。子どもたちにとって、この東京遠足は海外旅行に匹敵するのではないかと、付き添いをしながらいつも感じています。また、今回も当園の卒業生である小学生が何人か参加してくれました。小学生たちはよく園児の面倒を見てくれました。電車内でのトイレでは、どのボタンを押せばいいかわからなくて泣いてしまった子がいましたが、彼がやさしく教えてあげていました。

年月日:平成21年7月6日	かわもりだより 平成21年度第5号 より
担当者:担任Y/フリー担任A	内容:実際の遠足の様子

行ってきました！葛西臨海公園遠足

天候が心配でしたが、「遠足に行くんだ」というみんなの気合いで雨雲も吹き飛ばされました。7:20、結城駅集合。早朝にもかかわらず目がパッチリの子どもたち。今日の遠足を楽しみにしていたのを感じます。不安より期待が勝っていたのかな？「ママ～！パパ～！いってきま～す！」大好きなお家の人に元気に手を振り、出発しました。

結城駅から7分で小山駅に到着。宇都宮線に乗り換えて小山から上野は1時間近く電車に乗ります。全員座ることができ、近くのお友だちと外の景色を見たり（外を見るときは靴を脱いでそろえるという約束もちゃんと守れました）、お話ししたりと楽しく過ごしました。周りに一般のお客さんがいることも忘れず、寝ている人の近くでは静かにする気遣いもできました。「どこから来たの？」優しいおばさんとすっかり仲良くなって逆に子どもたちから「おばさんはどこに行くの？」と質問することも。楽しい交流のひとつでした。

上野から山手線で東京駅へ、人が多いのではぐれないようにとペアのお友だちと握る手に少し力が入ります。京葉線で東京駅から葛西臨海公園までの間に、一口のお茶とドロップを食べました。体に元気を与えます。目的地に向かう道中も楽しい遠足です。葛西臨海公園駅から歩いて水族園へ。途中、ディズニーランドのシンデレラ城が見えて、子どもたちは喜んでいました。年少組のころ、一緒だったYちゃん親子と合流し、子どもたちの喜びは最高潮。変わらぬ絆を感じたようでした。

記念撮影をして葛西臨海水族園に入場。入り口のエスカレータを降りると早速、大きな水槽が目の前に現れました。マイワシの大群、アカシユモクザメ、ウシバナトビエイなど、大興奮で子どもたちの会話も尽きません。サメが近づくと「おお～！」と歓声が上がりました。子どもたちより大きい？巨大な「クロマグロ」、頭にこぶのある大きな青い魚「メガネモチノウオ」、子どもたちが明太子そっくりと言っていたナマコの一種「アカミツクリ」、浮いた海藻に見えた「リーフィシードラゴン」、鳴き声が重低音の「ファンボルトペンギン」、触ることができた「ネコザメ」（ザラザラ！）、「アカエイ」（ヌルヌル！）、みんなはどの魚がお気に入りだったかな？

水族園を一周し、外の展望台におにぎりをいただきました。半分は水上バスの上で食べるために残しておきます。食べ終わった子からお土産選びです。魚のカード、ランチボックス、下敷き、ペンダント…今日の思い出とともに大切にしてくれることでしょ。水上バスの時間まで少し余裕ができたので、せっかくの東京遠足だからいろいろな体験をさせてあげたいという園長の思いから、葛西臨海公園の大観覧車に足早に向かいました。大きくてカラフルなゴンドラに子どもたちもウキウキ！近づくと本当に大きかったね！怖がっていた子も、乗ってみると景色も良く、楽しんでいました。

12:30、水上バスに乗り、45分間のゆったり海の旅となりました。先程乗った観覧車が徐々に小さくなっていきます。潮風に当たりながら水上バスの屋上で、残しておいたおにぎりをいただきました。「う～み～は ひろい～な～ おおきい～な～♪」

お友だちとの楽しい歌声も聞こえてきます。

お台場に近づくと、18メートルのガンダム探しが始まりました。お台場海浜公園に着いて、潮風公園に向かいます。水上バスからはほんの点にしか見えなかったガンダムが徐々に巨大に…。実物大のガンダムは迫力満点でした。

「このガンダム、どこから来たの?」「ぼくのパパもガンダム好きだよ」と子どもたち。締めは、プレイデー（ミニ運動会）で踊った体操「ガンダム」の決めポーズで記念撮影。ゆりかもめの台場駅まで歩いて、ここから再び電車の旅です。台場から新橋までの途中、劇団四季のライオンキングが見えました。来年もまたみんなで遠足に行けるといいね!

山手線で新橋から上野へ。上野駅で宇都宮線に乗り換えて小山へ。帰りの電車はうつらうつら眠りに落ちる子もいましたが、まだまだ元気のありあまっている子もいました。水戸線に乗り換えて結城駅へ。園長から栗のプレゼント。園服のポケットに入れてみんなうれしそうでした。結城駅の改札を抜けて、お家の人の胸に飛び込む子どもたち。最後のごほうびは、お父さんお母さんに会えたこと! お家の方も安心されたと思います。

とても中身の濃い遠足でした。盛りだくさんの内容で、今日一日をがんばりとおした子どもたちは確かな自信を持ったことと思います。ご協力いただいた保護者の皆様のおかげで、すばらしい一日を過ごすことができました。ありがとうございます。

年長組担任Mの補足

卒業生が遠足に参加すると、ふじみっ子がパワーアップするんだと、今回の遠足で感じました。体験の積み重ねは心身の宝物です。今回参加した4人の年長組さんも貴重な体験をしました。マグロの大群、ペンギンの群れ、指で感じたエイとサメ、大観覧車、船、ガンダムなどなど、頭の中を駆けめぐっていることでしょう。

7. 年長組の東京遠足

年月日:平成18年6月12日	うみやまだより 平成18年度第6号 より
担当者:担任O/フリー担任W	内容:遠足前のお知らせ

葛西臨海水族園遠足のお知らせ

年長組になって初めての電車遠足です。今回は葛西臨海水族園をメインに、ゆりかもめも乗ることになりました。大きなマグロやペンギン、熱帯魚などが見られます。ゆりかもめから見る景色は建物や車などがまた違って見えることでしょう。

早寝早起きを心がけ、全員が参加できるよう、体調を整えておきましょう。

ねらい

- ・電車や街中などのルールを知り、行動する。
- ・海の生き物に興味を持つ。
- ・集団行動をとりながら友達との親睦を深める。

年月日:平成18年6月19日	うみやまだより 平成18年度第8号 より
担当者:担任O/フリー担任W	内容:実際の遠足の様子

行ってきました!葛西臨海水族園

朝から元気いっぱいの子もたち。おうちの方に見送られていざ出発!今年の年長組は電車遠足が少なかったせいか、電車に興味津々でした。「わーきたきた、電車長いね!」「これは快速?それともドンコウ?」「電車ってどうして揺れるの?」宇都宮線に乗り換えてしばらくすると「あっ地球だ!」「?…気球だね。4つも見えるよ」「川だ~!」「海みたいだね」「水がにごってる」「きのう大雨だったからかな?」ハイテンションで抑えるのが大変な子どもたちですが、体験した分だけ身になっているようです。上野動物園遠足を年少組で行った子、年中組で行った子はすでに上野までの距離感がわかっていました。山手線に乗り東京へ、京葉線に乗り換えて葛西臨海公園へ、人ごみの中を必死でついていく子どもたち。赤い園服はとても良い目印になりました。トイレ休憩をとり、いざ水族園へ。ガラス張りの大きなドームの中は夢の世界もしくは竜宮城のようです。

最初に会った魚はアカシユモクザメ、スミツキザメ、次は大水槽の中をゆうゆうと泳ぐカツオ、マグロ、キハダ。じ〜と動かないウツボ、「イソギンチャクの中にニモがいるよ!」「ホント!」大きな大きなペスチャンチョ、スパイシークロスミの子育て、サザングローブフィッシュ…目の前でハラスジベラが卵を生んだ!砂に潜っているグースフィッシュ、きれいな色のレインボークラス、カリブ海のブルーヘッド、青い小さな魚でとてもかわいい…

ぐるっとまわってもう一度マグロの大群を見る。屋外に出て、フンボルトペンギン、フェアリーペンギンなどの泳ぎやエサの食べ方を見る。ペンギンの歩き方をKちゃんがまねしたらみんなでペンギンの鳴き声の大合唱!まわりにいた方が何事かと集まってきて大笑い。「みんな上手だね。本物かと思ったよ」130羽のペンギンにバケツ3杯のアジ、キビナゴなど。いっきに投げ込むことで若いのも年寄りももれなく食べられるそう。小さいフェアリーペンギンは警戒心が強いので、お客様からは離れたところでエサをもらう。

最後は日本の海。テングダイ、アオリイカ、カイコイセエビ、コブヒトデ、ウミロモドキ、トビハゼ、ヤマトオサガニ…

子どもたちの目のやり場はどこかと一生懸命追いかけてみました。実習性も驚いていました。ヘラヤガラを見て「バナナみたい」。魚を見て「うまそ」「魚がダンスしてるみたい」「魚といっしょに泳いでみたい」「私ここにきてよかった」「先生、貝ひろったからあげる」「いろんな名前おぼえられてうれしかった」などなど。

おみやげは6種類の中から選ぶことになりましたが、イルカの下敷きが4人、魚の下敷きが4人、魚のカードが4人、ドロップスが4人などと均等に分られました。館内を出て公園の芝生の上でランチタイム。11時ごろ、おなががすいたようでムシャムシ

ヤ食べていました。お母さんの顔を思い浮かべているのかな？その後、海岸に出て海を眺めました。貝をひろった子もいます。ボケットにおみやげとして入れました。

水族園見学、昼食、海見学と早めに進めたので水上バスに乗ることになりました。ちょっと不安げな子もいましたが、みんなで乗ればこわくない！デッキで水しぶきがかかるたびに大騒ぎ。

「あっ、魚がはねた！」

「あっ、またはねた！」

係の方に聞いたらボラという魚だそうです。船のボォ～という音、波しぶき、「大きな船だね」「ビルがすごいね」船を降りると次はゆりかもめ（モノレール）に乗る。お台場の街並みは子どもたちにはどのように映ったのでしょうか。

「この電車、運転手がないよ」

「線路がかわってる」

「歩いている人が見えるよ」

「ピンクの船発見！」

「ヒコーキ飛んでる！」

ゆりかもめを降りると「にぎやかな街だね新橋は」とHくん。山手線からはぞみ500系や新マックスが見られました。上野で休憩した時に青森ミニねぶた、赤ベコを見ることができました。ラッセの花踊りも見ました。M先生が飛び入りをして、またまた大騒ぎ！宇都宮線では12人の子が順番に寝ました。朝から帰りまで寝なかった子は3人。お家に帰って寝たのかな？

盛りだくさんの約9時間半の遠足。海の生き物に興味を持つとともに、集団行動や友達との親睦は十分にはかかれたと思います。電車や町中でのマナーやルールは体験をとおして個人差はありますが分かってきたようです。次回の遠足へつなげていきたいと思えます。

年月日:平成18年6月23日	うみやまだより 平成18年度第9号 より
担当者:担任○/フリー担任W	内容:遠足後の子どもたちの様子

東京葛西臨海水族園遠足の感想をありがとうございます。子どもたちの心の中に大きく焼き付いたいろいろな思い出を大切にしていきたいと思えます。子どもたちの感動を絵に描いてみました。とても印象の強かったクロマグロやサメ、ペンギン、ヒトデ、レスプレジデントゴールドなどが画用紙から飛び出してくそうです。お部屋に飾ってありますので、来園の際はぜひ見てください。

年月日:平成18年8月19日	うみやまだより 平成18年度第14号 より
担当者:担任○/フリー担任W	内容:遠足前のお知らせ

劇団四季ライオンキング観劇遠足のお知らせ

園長の熱意で、去年の年長組全員が、ライオンキングを見ることができました。約2時間半の生のお芝居は長いと思いましたが、感動で子どもたちの胸は高鳴りました。きっと子どもたちだけだからがんばれたのでしょう。帰ってきてからも興奮がさめやらず、大型パネルに絵を描いてみたり、プライドロックをつくったり、運動会ではテーマ曲での表現（バルーン&側転）をすることができました。さて、今年の年長さんはどのように受け止めてくれるでしょうか？楽しみにしています。

年月日:平成18年9月20日	うみやまだより 平成18年度第17号 より
担当者:担任○/フリー担任W	内容:実際の遠足の様子

劇団四季ライオンキング観劇遠足

「ライオンキングまであと何日？」と指折り数える子。「かぶりもの、こわいなあ…」「暗くなるの？」心の中の変化を確認しながらの1週間。去年はじめて挑戦したこの観劇遠足。果たして今年も成功できるか？ できるようにするにはどのような配慮をしたらよいか？ 担任はいろいろ考えました。去年のクラスには4回も見に行っている子がいて、その感動を友だちに伝えてくれていました。

今年の年長組は先輩たちの行ってきたあとの作品や表現を見て自分たちのイメージをふくらませているのかなと思いつつ、逆のイメージの子もいるので、こわがりそうだなと思う子は先生のとりに座るようにした。行き帰りの電車の中も、外の景色を見る時は靴をそろえて脱ぐ、おしゃべりのボリュームを調整するなど、現地での実体験をとおしての社会マナーの勉強です。どんな心の準備と配慮をしてもハプニングは起こります。臨機応変に対応できることは日頃の保育のつながり（チームワーク）に関わってきます。教えた分だけ子どもたちの心を安定させ、よりよい遠足になったように思います。

OBの親子を含む12人のスタッフの連係プレー、陰ながらのご配慮があつてこそその11時間の遠足、そしてご家族の方の子どもたちに対する思いがあつてこそその遠足と感謝しています。

さて、生のお芝居を見た子どもたちの感想は以下のとおりです（園児名はイニシャル）。

H.Y	おもしろかった！ライオンキングの活躍、シンバが王様になるためにがんばったところが良かった。（3月に家族で観劇）
-----	---

	好きな配役はシンバ)
N.T	お猿のブランコがおもしろかった。お父さんは死んだ。
R.Y	すごく良かった。シンバが最後に王様になれたところが良かった。スカーが助けてくれなかったからお父さんは死んじゃった。スカーは大きくなったシンバにやられた。スカーは落ちてハイエナにやられた。
H.O	良くて泣けた！王様が死んで悲しかった。シンバが王様になったところ。
R.S	スカーは真実の魂。ハイエナたちをだましたので最後に殺された。ちょびっと怖かった。川のところはビデオにはなかった。
T.H	おもしろかった。王様はスカーのせいで死んじゃった。お猿とテイモンのおもしろかった。
A.S	お父さんがおっこっちゃった時、どうなってるのかなーと思った。テイモンが川に流された時、ちがう人の声に聞こえた。子どもの頃のナラ、かわいかった。
M.K	すごく良かった！王様は死んで星になった。シンバが王様になった。ブンバ、おもしろい。
K.I	すごく良かった。王様はシンバを助けるために死んだ。悪いのはスカー。ハクナマタタは気にするな！シンバが王様になった。テイモンとブンバ、おもしろい。
S.A	ちょっと怖かった。お猿がおもしろかった。最後まで見るの飽きちゃった（といいつつストーリーはよく理解している）。
S.M	すごく良かった。シンバが大きくなって王様になったところ。
Y.M	こわくなかった。おもしろかった。ザズーのおしゃべりがおもしろい。
R.D	かなしいところがあった。お父さんが死んじゃったところ。
M.I	ちょっとおもしろかった。お猿がおもしろかった。お父さんは死んじゃった。シンバは大きいライオンになった。
R.E	こわかった。テイモンとブンバ、おもしろかった。スカーは悪い人。

以上の感想は、丸一日おいて19日に登園してきた時に尋ねたものです。観劇した日は興奮状態で「おもしろかった！」の一声でした。おうちに帰ってどんな話をしたのかな？ ぜひ聞きたいです。それともぐっすり寝てしまったでしょうか？ 心の中でいろいろも思っている相手にもわかるように言葉で伝えることはむずかしいことと思います。ここに書いてある以上に子どもたちの目は感動や怖い場面で我慢したことなどが伝わってきました。ちなみに一番良かった、印象に残った配役を聞いてみましたが、そこにも個性が見られるように思いました。

ディズニーのライオンキングをビデオで見たことがある子、7人。ストーリーをある程度わかっている子、先々の説明をする子。予想を立てて見ている子。アニメにはない場面を発見する子。まったく別のもので見ている子、とさまざまでした。アニメで見えていない子、8名。長いストーリーをある程度理解していました。無の状態でもとてもよく吸収した子もいます。それだけに5歳でもわかる劇団四季の演技力と情熱を感じさせられました。

ライオンキングのテーマである「サークル・オブ・ライフ」(生命の環)を子どもたちはどのように受け取ったでしょうか。5歳、6歳で見たライオンキング、心の成長とともに10歳、15歳、20歳と見ることができたら、きっと奥深いものになっていくように思います。

ライオンキングの他にも、子どもたちは芝離宮でゆっくりとくつろいで昼食をとり、庭園を探索して、コイやカメに出会い、数分おきに通るモノレールやゆりかめ、新幹線をながめて楽しいひとときを過ごすことができました。人身事故で電車が一本遅れ、夜の暗さが増してちょっと不安になった子ども、結城駅に着くとお家の方めがけてまっしぐら！ 全員無事にお家の方のところに戻れて本当に良かったです。

年月日:平成19年3月5日	うみやまだより 平成18年度第29号 より
担当者:担任○/フリー担任W	内容:遠足前のお知らせ

横浜遠足のご案内

卒業を目前に控えた子どもたちですが、相変わらず遊びの天才ぶりを小さい子どもたちに伝授しています。卒業後もいろいろなイベントがあり、多数の参加が予想されています。フリー登園最終日は、横浜遠足です。希望される方はお申し込みください。

年月日:平成19年3月19日	うみやまだより 平成18年度第30号 より
担当者:担任○/フリー担任F	内容:実際の遠足の様子

横浜遠足特集号

朝6時50分、集合10分前に半数以上の子が集まった。少し肌寒いので改札口へ向かった。3歳児の上野動物公園遠足(平成19年3月1日実施)の経験をもとに、小山駅3分間での乗り換えを実行！子どもたちにすみやかに移動することを伝え、ドアが開くと同時に大人たちの流れに合わせて階段を上り、下り、宇都宮線へ乗換で乗ることができた。車内はHくんの電車ガイド付きで飽きることがない。

Nくん「あれは何？」
Hくん「エクスプレスだよ」
Nくん「あれは？」
Hくん「寝台車」
Nくん「あれは？」
Hくん「おはよう栃木」

H兄弟も窓の外をずーっと見ていた。Eくんは小さい子に気を遣う。

上野駅ではすばやく京浜東北線に乗り換える。約10分後、予定変更で、東京駅で東海道線に乗り換える。この方がすいていて20分早く着くからだ。乗り換え乗り換えで息つく暇もなく横浜に着く。シーバスの待合所へ向かっている時に何か白いものが？「あれ？」「雪？」「わー雪だ！」子どもたちは大はしゃぎ。しかし2、3分で消えてしまった。電車の中が暑かったので喚起にちょうど良い風花だった。待合所となりのデザイン画を見学、園長が「どの模様が好き？」と言うと、お気に入りデザインの前に立ち、ハイポーズ。船に乗ると、いちはやくデッキのイスに座り海の様子を見る。カモメがとても近くまで寄ってきて子どもたちを見ていた。立ち並ぶビルや観覧車、ベイブリッジなどに歓声を上げていた。氷川丸が見えてくると終点。氷川丸をバックに集合写真をとった。今年から中が見られないのでちょっと残念…。

さて次はみんなのお待ちかねのランチタイム！中華街を歩き「中国みたいだね」。Mというお店に入った。ラーメンにチャーハン、肉団子に餃子。みんなよく食べた。おかわりの連発でいつもの2、3倍の量の子もいた。ここまでたどりつくための緊張もとけて食欲たっぷりだったようだ。おなかも満たされて、見学コースへと向かった。

横浜人形の家

世界の人形が飾られていて、とても興味をもって見ていた。さわってあそべるおもちゃは大人気。日本のとても古いひな人形は子どもたちの心を思った以上につかんでいるようで見入る姿が見られた。人形の家を出ると坂道をどンドン登っていく。子どもにはパワーがある。大人は明日の筋肉痛を思いつつ安全確認をする。

港の見える丘公園に着くとまたまた走り出す子どもたち。散歩中の犬の飼い主に「さわっていい？」と聞いてはうれしそうになてていた。ベイブリッジや横浜港の建物がとてもよく見えた。道を下って、また登って、ちょっと疲れたかな？

「先生、道まちがってない？」

「大丈夫、もう少しで着くよ」

次の見学は、ブリキのおもちゃ博物館。木造でとてもかわいい建物の中にはブリキのおもちゃがいっぱい。先日、結城で山田おもちゃギャラリーに行ってきたばかりなので、似たものが置いてあり、これまた興味を持ってよく見ていた。ゼンマイで動くおもちゃの説明もよく聞いていた。2回も聞くと、ゼンマイや昔のおもちゃの良さがよく心にしみたのではと思う。ラッキーなことに館長の北原さんにも出会えたとし、ここでもまた大きなとてもおとなしい犬に出会って、犬好きの子は大喜びだった。となりの一年中クリスマスの店も魅力あるところだった。館の前で写真を撮り、帰り道へ。

坂を下り、途中、木のおもちゃのお店に立ち止まる。「あつ、これ幼稚園にある！」木馬やコイデのガラガラなどを指さす。石川町の町並みはとてもすてきでいろいろなものが目に入ってくる。外車、大きな赤い木のイス、アクセサリー、洋服…石川町の駅でトイレタイム。1時間おきくらいにトイレのチャンスはつくっていたが、ほとんど行かない子もいるのでここで全員に行かさせた。

電車に乗ってホッと一息と思っていると電車が止まる。空き缶が線路内に飛んでいるので車掌が取りに出るとのこと。21分の停車…。上野駅で5分の待ち合わせになってしまった。構内を7番線に向かって走る。間に合った！電車の中でおやつタイム。またまた停車時間が長い。結局、小山駅も5分の待ち合わせ。すみやかに移動して水戸線へ、結城駅に無事たどり着いた。

年長の3月の子どもたちだからこなせたスケジュールだったと思う。ふじみっ子のエネルギーさを実感した一日だった。引率者は神経と体力を十二分に使い果たした。

年月日:平成19年10月1日	うみやまだより 平成19年度第18号 より
担当者:担任O/フリー担任F	内容:実際の遠足の様子

劇団四季ライオンキング観劇遠足記

9月28日(土)、小雨降る中、結城駅に集まる子どもたち。天気はあまりおもしろくないが、子どもたちの心の中は晴れのち晴れ、といった様子。元気いっぱい19人全員そろうことができ、いざ出陣！お家の方にあいさつをして改札口へ向かいました。電車の中での過ごし方は、今までの経験からかなり慣れてきました。立っている時はよろけないようにちょっと足を開いてつま先に力を入れているとよいこと。座っている時はまわりのお客さんに迷惑をかけないように、足をブラブラさせない、窓の外を見たい時はくつをそろえてぬぐ、大声を出さないなどのルールもわかまえるようになってきました。友だちとの会話ははずむと、時に声のボリュームが大きくなってしまふこともあります。ちょっと声をかけると気づきます。結城～小山(約8分)、小山～上野(約80分)という時間の流れも感覚的にわかってきたようです。

上野でトイレタイム、京浜東北線に乗り換え約15分で浜松町へ。外はパラパラと降り出しかげんの雨。急ぎ足で1分、芝離宮到着。藤棚の下でちょっとはやいランチタイム。大降りになるといけないので見学前にいただくことにしました。子どもたちのうれしそうにはおぼろお弁当を見ていると、お家の方がそこにいてガンバレと応援してくれているように見えました。

時折風がふいて雨が吹き込むので、雨がっぱを着ることになりました。子どもたちは待ってましたとばかりに着始める。今まで遠足に入っていたことのないものが入っているので興味津々だった様子。さっさと着て、雨の中に出てみる子、うまく着られないで手伝ってもらおう子、みんなニコニコ顔、引率者は空の様子を見ながら動いているが、子どもたちにとって雨の日もまた、未知なる世界が発見できてワクワクドキドキの様子でした。

「お庭を見学したい子は園長のあとについてください」と声をかけると、全員かけよってきました。雨の日の散歩、色とりどりの雨がっぱもうれしそうにモコモコしていました。

芝離宮の出口でお嫁さん一行に出会いました。「ワーきれい」「おめでとう！」と拍手をする子どもたちにお嫁さんもニコッとほほえんでいました。貿易センタービルとポケモンセンター内をちょっと見学していざ劇場へ！

12:15入場15分前でしたが、雨のためかはやめに入れてもらえました。係員の方の案内で会場へ。前の人のイスをトントンしないこと、立ち上がらないことなどの注意を一人ひとりにして下さり、また、後ろにいたので困ったことがあったら声をかけるようなど、安心感を持たせてくれました。トイレもすませて、劇のはじまるのを待つ。ラフィキの歌い声からはじまるオープニング！シンバの誕生を祝いに来る動物たちの踊り、このワンシーンだけでも感動ものだ。シンバが大きくなり苦難を乗り越え

て王になるという話ですが、生命は循環し永遠に受け継がれるという大きなテーマが盛り込まれています。子どもたちはどのくらい理解できるのか？生のお芝居の役者の心に触れられることだけでも良い体験だと思います。

約2時間40分(休憩20分)、興奮しながらよく見ていました。おもしろい時に笑える反応の良さもありました。エンディングで拍手をして夢になって手を振る子にむかって役者さんもこちらを向いて手を振ってくれているようでした。興奮さめやらぬまま会場を出て、浜松町駅へ向かう。帰りの電車はにぎやかだった。緊張も解け、劇の余韻もあって、その中で眠ることができたのは4名のみでした。全員無事に帰ってきました。ぜひぜひ子どもたちの声、お家の方の感想をお聞かせください。

年月日:平成20年7月7日	うみやまだより 平成20年度第9号 より
担当者:担任Y/フリー担任F	内容:実際の遠足の様子

ライオンキング遠足へ行ってきました！

前日には「明日、天気悪いって」「ライオンキング、ビデオでみたことあるよ」「音がうるさいんでしょ(兄弟に聞いて)」など、様々な情報が飛び交いました。ここ何年かは9月頃の遠足だったのですが、ライオンキングは10年目というロングラン作品なので、いつ終了してしまうか分からない…ということで、早めの遠足となりました。

当日、残念ながら1名のお休みとなりました。天気は暑すぎるくらい猛暑日。ですが、電車や劇場の中の冷房が強い時のために園服をかばんの中へ。しっかりと手をつなぎ、8:00頃、元気に「行ってきまーす」。お家の方が見送ってくれていて、子どもたちも嬉しそうでした。小山駅では寝台特急がものすごいスピードで通過し、あつという間の出来事にびっくりしたようです。電車の中では友だちとお話したり、窓の外を見たり、隣や前に乗っている人と会話を始める子も。

浜松町駅を出てすぐに芝離宮があります。七夕飾りをくぐり抜けると都会とは思えぬ立派な庭園が。かばんを置いて一回りするごとに。アジサイやキキョウが咲いていて、鯉、カメ、シオカラトンボなど様々な生き物も生息していました。カモが泳いでいたり、自然に鳥たちも集まってくるようです。少し丘になっている草原のところで寝転んで転がったりして、体を動かすことができ、子どもたちは元気復活といった感じでした。11:00頃、お昼にし、日陰でシートを敷いてベンチで食べました。愛情のこもったお弁当で、子どもたちも大満足でした。

少し早めに出発し、ポケモンセンターを見たり、海を見たりするなど寄り道をして、劇団四季へ。さっそく中へ入るとたくさんのお客さんがいました。先生たちを間に入れて、席に着くと、「何か聞こえる」と生演奏の楽器の音に耳を傾けていたり、トイレを済ませたり、「怖い」という子は席を変えたり、様々な思いで開演を待ちました。

時間になり暗くなるとオープニングとともにアフリカの大地へと一変し、その圧倒的な迫力子どもたちも釘付けでした。耳をふさいでいた子も自然と手が離れ声を出して笑うシーンも。反対に、怖くて泣き出す子や震える子も。でも、場面が変わっていくうちに落ち着いて見られるようになりました。人間が動物を演じるという高度な演技力や生の歌声、生の演奏、鮮やかな舞台背景は、見ている人を感動させ、この年齢でこんなに素晴らしいものを生で見られることは本当に幸せであり、すごいことだと思います。

あつという間に時間が過ぎ、休憩に。中には飽きたという子もいましたが、最後までがんばって見られるということで見守ることに。後半、集中が切れたのかおしゃべり声も聞こえたりもしたのですが、席を変えたりしながら最後まで全員見ることができました。2時間50分という時間は、7月の子どもたちにとってはハードな課題だったのかな？とも思ったのですが、終了後の感想を聞くと、「おもしろかった」「ちょっと怖かった」「楽しかった」と目を輝かせて答えてくれたので安心しました。

ストーリーの中に、「すべての命は形を変え、姿を変え、永遠に受け継がれる」という命の環のテーマが込められているのですが、少しでも子どもたちがこのことに気づいてくれたら良いと思います。

興奮冷めやらぬまま会場を出ると、電車の乗り換えの関係で少し早歩きで進みました。上野駅で氷のおやつをいただきホッと一息。電車に乗るとすぐに眠る子もいましたが、最後まで元気いっぱいな姿も。お家ではどんな会話があったのでしょうか？ぜひお聞かせください。長い長い遠足でしたが、また一つ良い思い出、体験ができたのではないのでしょうか。

8. 個別の遠足に関する保護者と子どもの意見・感想

平成21年1月24日に実施した東京ドーム・ニクーリンサーカス遠足と、平成21年7月4日に実施した葛西臨海水族園遠足についての保護者および子どもの感想を以下にまとめた。年中組中心の東京遠足だが、年長組の一部も任意で参加した。「子ども」欄は、子どもの会話や様子などを親が記入したものである。

<東京ドーム・ニクーリンサーカス遠足(平成21年1月24日)>
<年中組>

Sさん	子ども	ピエロがいたよ～。 ケーキが大きなチキンになっちゃった。クリスマスに食べるやつだよ。
	親	いつもありがとうございます。遠足から帰ってくると何はともあれ話をしたいようで、着替えもせず、おやつも食べず、ピエロが！空中ブランコ落ちちゃった！お相撲さん細かった！今度は弟も連れて行く！と次の予定までたてていました。
Kさん	子ども	犬とおばさんのやつがおもしろかった。ピエロさんの鼻水もウケた。
	親	興奮気味にサーカスのお話をしてくれて、親まで一緒に見てきた気分になりました。とてもいい経験をさせていただいて、感謝しています。
Wさん	子ども	ピエロの演技、とてもおもしろかった。おすもうさん、大きかったよ～。

	親	とても良い体験ができたと思います。遠足では電車の乗り継ぎを自分たちでできるし、初めての体験をすることでその度に子どもが成長していくことがわかります。サーカスのピエロの愉快なところはずっと話していましたよ。両国国技館に行くところはサプライズですね。テレビで時々相撲を見ているので、こんな大きい人が取り組みしているんだと理解したと思います。良い経験をさせていただき、ありがとうございました。
Sさん	子ども	ピエロのマジックがおもしろかった。すごくあぶないことやってたよ～！ まだやってるからもう1回見に行こうか！
	親	サーカスは初めて見るので「だいじょうぶかなあ…」と少し心配していましたが、心配はいらなかったようです。家に帰る途中もいろいろ思い出しながら楽しそうに嘯を聞かせてくれました。良い思い出ができて良かったです。
Sさん	子ども	どすこいが4人もいたよ！ピエロがおもしろかった！（失敗してしまうところが）
	親	疲れも見せず帰宅した姿に体力がついたなあ…と改めて感じました。初めてのサーカスで、内容を少し興奮気味に話してくれました。次は家族で見に行ってみたいと思います。先生もお疲れさまでした。
Kさん	子ども	犬と熊がいた。ピエロが泣いていたんだよ。おすもうさん見たよ。
	親	毎日のことながらずっと楽しみにしていた遠足。テレビCMでたまたま見かけてすごうれしそうでした。「…熊がいるんだ…」と。動物は印象的だったようで「熊と犬がいた」とうれしそうでした。よく泣くピエロの話もしてくれました。両国に寄っておすもうさんを見た聞いてビックリでしたが、子どもは大満足の様子でした。家に帰るとおやつとごはんをたくさん食べました。おすもうの顔のアメのお土産ははうれしかったみたいです。いつもの栗も！
Kさん	子ども	熊の縄跳びが上手だった。袋を持ったピエロさんがボールを投げてって言って私たちが投げたらボールが増えて…
	親	早速、駅に到着するやいなや、爆弾トークが始まりました。家に着くと絵を描いて説明して伯母ちゃんに電話してお話をして…。みんなにこの楽しかったことを伝えたかったのでしょうか。本当に良い思い出ができました。ありがとうございました。
Mさん	子ども	たのしかった。
	親	はじめてのサーカス。空中ブランコが印象的だったみたいです。貴重な体験、ありがとうございました。先生方、おつかれさまでした。おすもうさんも見られて感動していました。
Oさん	子ども	ピエロのおじさん、おもしろかったよ！お姉さんがブランコにのって、つかむ人とつかまれる人がいてすごかったよ！犬や熊もかわいかった。あたしもステージに出たかったなあー。
	親	ちゃんと怖がらずに見学できるか心配でしたが、かなり楽しかったようでいろいろ話してくれました。電車の中で座れなくても足をふんばって立っていた、なんて話を聞くだけでも、ものすごく大きくなったんだなーと思います。
Yさん	子ども	くまのなわとびがおもしろかった。
	親	私の顔を見たときたん泣き出したのでどうなることかと思いましたが、大丈夫だったようです。楽しそうに帰ってきました。ほっとしました。
Sさん	子ども	電車に乗って東京まで行くと泣いちゃうから行きたくないよ～
	親	今回は体調くずして欠席してしまいました。来年のライオンキングの時は元気いっぱいで行ってほしいと願っています。
Mさん	子ども	ケーキのピエロさんがおもしろかった。
	親	サーカスの話をすると体で表現しながら一生懸命説明してくれました。おすもうさんの話しもしてくれました。朝は寒くて心配だったけど、全然大丈夫だったようで安心しました。

<葛西臨海水族園遠足（平成21年7月4日）>

<年中組>

Sさん	子ども	観覧車 もういっぱい いきたい（子ども自筆）
	親	結城駅で帰りを待つと、余裕のニコニコ顔で帰ってきました。本当に体力がついたと思います。はじめての大観覧車と水上バス、ガンダムなど…大満足で土産話をしてくれました。子どもたちがどんな道中なのか、親としては垣間見たい気もしますが、親が同行しないからこそ「自分の足でガンバル」「みんなとだからガンバレ」遠足ができるのかもしれないですね。先生方には大変なご苦労をいつもながら感謝します。 天気も味方してくれて良かったです！
Tさん	子ども	たくさん歩いて疲れた。でも楽しかった。また行くよ。
	親	親から離れて、遠方へのお出かけ、大冒険をして来た様子で、達成できたことで自信を持ったようです。お世話様でした。
Sさん	子ども	何がおもしろかった？と聞くと、「見学」といってました。
	親	私も行きたい遠足でした。ガンダムをぜひ見たいです。姉もすごく満足していた様子でした。ありがとうございました。
Wさん	子ども	ペンギンがよかった。サメ触ったよ。ザラザラだった。魚の絵をたくさん描きました。タツノオトシゴも描いてました。疲れた～。

	親	帰ってきてから魚の図鑑を見て「リーフィ・シードラゴン」いたよ〜、と話してくれました。今までの遠足で一番いろんなことを話してくれました。いろいろありがとうございました。
Wさん	子ども	楽しかった。観覧車がとてもよかった。また行きたい。
	親	一番心配していたのはチョロチョロして迷子になってしまったらということでした。元気に帰ってきてくれていろいろなことを話してくれました。(お土産の)ストラップは「パパにだからね」とパパは大喜びでした。
Iさん	子ども	とても楽しかった！ 遠くてつかれたけどまた行きたいよ！ Mちゃんにも会えた。 ウツボみた〜。長かったよ。
	親	毎回無事に帰ってくるかと心配ですが、子どもの顔を見て大冒険を達成した表情に満足します。来年は「ライオンキング行く〜」と気合い十分です。
Tさん	子ども	とっても楽しかった。電車に乗れてよかった。たくさん歩いて疲れたけれど、ちゃんと歩けた。
	親	ちょっとだけお兄ちゃんの顔になったような気がします。みんなと一緒に遠足に行くことができ、また一つ良い体験ができました。ありがとうございました。
Hさん	子ども	ガンダム大きかった。 楽しかった〜！ Dちゃんがやさしかった。Dちゃん大好き！
	親	子どもと長い時間離れてちょっぴり気になりましたが、私もゆっくり過ごせました。電車に乗ってバイバイする姿に少し感動しました。成長しているんですね！こんな体験ができて、心に残ると思います。ありがとうございました。先生方、お疲れさまでした。
Oさん	子ども	水族園にマグロがいた！泳いでいたからおいしそうか分からなかった(笑)。 ジンバイザメ(本当にいたのかな?)、怖かったから見なかった。 観覧車に乗ってディズニーランド見えたよ！ガンダムもすごかった。 ジンバイザメを見るのが怖いからメリーゴーランドに乗った、と言っていました。 ディズニーランドのシンデレラ城見えた。 シンデレラも手を振っていた(本当?) サメがいたよ。 エイのことは「ここに羽がついてた」
	親	病み上がりで多少心配がありましたが、とっても楽しみにしていた遠足。朝からハイテンションでかけていきました。天気にも恵まれ、良かったのではないのでしょうか。 帰ってきた様子からやっぱり本調子ではなかったようですが、楽しかったようです。 先生方、ありがとうございました。
Sさん	子ども	まぐろがいっぱいいたの！ひとでも！ 観覧車に乗ったんだよ。シンデレラ城が見えてね、きれいだったよ。 ガンダムはね、テレビでやるのと同じ大きさでね、大きかったよ。 …などなど、帰ってからしゃべりっぱなし。
	親	すごく楽しい一日だったようで、とても良い経験になりました。帰ってきてから寝るまでずっと遠足の話をしていました。天気を心配していましたが、行けてよかったです！ 先生方、ありがとうございました！
Iさん	子ども	ガンダムがすごかった。 ふね、楽しかった。 ならんでいる時、あいだがあいているから走ったら楽しかった。
	親	電車6本も乗り、船も乗り、水族園、ガンダム、観覧車。大人でもそのくらいまわったらすごいことを、園児がして、すごいです。とても自信がついたと思います。
Nさん	子ども	マグロが元気に泳いでいてとても美味しそうだった。マグロ食べたくなっちゃった。 のどがカラカラ。途中で食べた氷がとても美味しかった。 観覧車より、ガンダムのほうが大きかったよ。
	親	前日、帰宅後、一人でリュックに持ち物をつめ始め、私に「おにぎりはいくつ、飲み物は…」などなど、指示を出してました。そして、「てるてる坊主をつくる」と言いだし、窓辺につるし大満足。おにぎりが食べられないと泣いた子と同一人物か?と思うほど、しっかりしているんだけどなあ…。 夕食時は食事がまったく進まないほど、家族に遠足のあれこれを聞かせてくれました。とても楽しい一日だったようです。
Oさん	子ども	たのしかった。かんらんしゃがちょっとこわかった。
	親	またもや天気が心配でしたが、雨も降らなかったようで、よかったです。帰ってきてすぐの顔を見られなかったのが残念…遠足の写真見るのが楽しみです。
Yさん	子ども	いっぱい歩いた。疲れた。けど電車にのれて楽しかった。 「パパが大好きなガンダム見たよ」とうれしそうに話していた。

	親	「そんなに歩けるの？」と思っただけ、本人は、どおってことなさそうに、ニコニコ顔で帰ってきたので安心しました。
Nさん	子ども	とくに自分からは何も言いません。水族園でサメをさわるところがあったけど、さわれなかったと…。
	親	上野動物園の時といい、いつも何も言ってくれない。ただ必死でついていっているだけで精一杯なのか…。日曜日の新聞の表紙にガンダムが載っていたのに気がつき、僕、見たと言っていました。あっ！遠足から帰ってきて、体力がありあまっているのか…。動きっぱなし。ふじみパワー、おそるべし。

<年長組>

Oさん	子ども	ガンダム、観覧車、水族園が楽しかった。水上バスは気持ちよかった。同学年の子がいたのでとても楽しかった。
	親	先生方お疲れさまでした。お陰様で彼も楽しい思い出が作れたようです。盛りだくさんで先生方は大変だったでしょうが、子どもたちは思い出深いものになったようです。ありがとうございました。
Oさん	子ども	ペンギンがかわいかった。かわいいお魚がいっぱい見られて楽しかった。観覧車乗れて楽しかった。ガンダムが近くで見られてうれしかった。
	親	天気にも恵まれ、内容もりだくさんの遠足で、すごく楽しかったようです。私も行きたいとうらやましく思いました。元気に帰ってきた姿を見ると、いつもさすがふじみっ子！と思います。

9. 東京遠足全般に関する保護者の意見・感想

上述の葛西臨海水族園遠足の調査と並行して、各学年の保護者に対して、東京遠足全般についての意見と感想をお願いしたところ、これにも数多くの回答をいただいた。一人ひとりの親の気持ちが伝わるものばかりで、当園保育者の励みとなるものばかりであった。

<年長組>

Kくん	遠いので親は心配ですが、子どもは強くなりました。 東京遠足は嫌ではないようです。 一度用事で電車で一緒に東京へ行きましたが、最後までぐずることなく、「経験」なんだな、と思いました。 病気が流行る時期は心配です。体調がイマイチの時も、遠いところは無理はさせたくないと思います。
Mさん	東京遠足の手紙が来たとき、いつもどおり大喜びで「行く」と言うと思いきや、「行かない！」という答えに親の方が拍子抜け…。本当に行かなくていいのか？と何度も聞いても答えは同じ。めずらしいなと思いつつも、申込をしないしていると、風邪をひいて咳がひどくなり、プールを休むようになっていたので、遠足の申込をしないでよかったと思っていたら、直前になって彼女が「やっぱり遠足楽しそう。行きたい！」と言い出しました。体調が万全なら行かせてやりたかったのですが、東京遠足で他の子に迷惑がかかってはいけないうので、かわいそうでしたが諦めさせました。最初になぜ「行きたくない！」と言ったのか聞くと、ライオンキング遠足で不覚にも友だちの前で泣いてしまい恥ずかしかったこと、また怖いところに遠足で行って泣いてしまったらどうしようと不安で仕方なかったようです。今回の遠足の写真を見て「行きたかったな…」とつぶやいていました。
Sくん	回数を重ねるごとに本人の自信につながり、生活の中でたびたび感じるようになってきました。東京までの長旅は親は帰ってくるまで心配なのですが、これも回数を重ねるごとに「大丈夫！心配ない！」と思うようになりました。小さいから…ということはないですね。小さいなりにやればできることを親は教えてもらっています。
Kくん	遠足は遠くでも近場でも子どもは楽しんで帰ってきます。しかし、東京遠足の時は、翌日の疲れがずいぶん違います。子どもなりに緊張して、また、他の子の手間？いつもより我慢したり頑張ったりしているのでしょうか。しかし、同時に楽しむことも決して忘れてはいません。親としては、子どもの成長を確認できる行事の一つです。両親の実家に帰省するときには主にJRを利用していますが、やはり親と一緒にだと、公衆のマナーも忘れるほどグズグズになる時もあります。そんな時はデッキに出たりするなど、ひたすら言い聞かせますが、大変です。でも、本人（子ども）はわかっているのです。「電車中での約束」を。親がいないと子どもはがんばれるとは言え、毎回の先生方の緊張感も相当なものだと思います。本当に感謝しています。卒業生が参加できるのもありがたいです。幼稚園時代の経験の上に、新しい発見を毎回していると思います。
Iくん	親と離れて、電車に乗るといようなことは、なかなかできない、貴重な体験で、素晴らしいです。今後も続けて欲しいです。
Oさん	小さな体で自分の足で電車を乗り継いだりして東京まで行くということは、世の中はもっともっと広いんだ、知らないものがまだまだたくさんあるんだということを体で感じるができるし、一緒に歩いていく他の子どもたちや先生のことをよく見なきゃいけないので注意力も養われると思うし、自分の行動にも責任を持つことができるようになると思うので、とても貴重な経験だと思います。
Wくん	幼稚園の遠足として、親同伴でない園は富士見幼稚園だけだと思います。しかも、電車を何度も乗り換えて目的地に着させ、計画通りの時間に帰宅させられる園長はじめ引率の先生方には感心の一言です。毎回ありがとうございます。この遠足で、子どもたちはいろんな経験ができ、社会勉強もできるので、心の成長には欠かせない行事だと思っています。引率や先導は大変ではありますが、子どもたちのためにこれからもお願いします。

<年中組>

Tくん	子どもたちだけの遠足に少々不安もありました。けれど、無事に帰宅をして、子どもから遠足での楽しい話を聞いてみると、とても意義のある充実した貴重な体験ができたことに感謝しています。親から離れて、園児と先生方だけの遠足というのもとても良かったと思います。 先生方は大変だと思いますが、今後も継続して行ってほしいと思います。
Iさん	去年の遠足を経験したので、今年は安心して見送ることができました。 一日でたくさん場所へ行って、スゴイ！と思いました。 彼女もかなり自信がついた様子です。
Nさん	他の幼稚園のお母さんに先生と園児だけで東京に遠足に行くと言うと、だいたい驚かれます。その上、電車で行くという「えっ〜！」って感じですよ。 とくに東京遠足は、行くたびに「かわいい子には旅をさせよ」ってことわざはまさにこのことだと思います。楽しかった遠足のことだけではなく、家族が待っていてくれるという思いを子どもが感じることができる貴重な機会だったと思います。遠足に行くとき必ず楽しかった、おもしろかったという感想に加えて、頑張って歩いたと強調します。家族で行っても、絶対、疲れたお腹空いた、眠いなどなど言い出します。とはいえ、子どもたちは良く歩きます。幼稚園の日々の生活がものすごい体力につながっているんだなと思います。 先生方も大変お疲れになると思います。今回もとても楽しい遠足だったようです。ありがとうございました。
Wくん	盛りだくさんの遠足ですごく楽しかったと思います。帰ってからいろいろ話してくれました。 また楽しい遠足期待してます！姉が行くことができなくて残念がっていました。 ありがとうございました。
Sくん	内容の濃い、うらやましい遠足です。 夕方に結城にもどってこられることがすごいなと思います。 子どもも大満足そうでした。疲れたとも言いませんでした。
Sさん	幼稚園で（しかも年少さんから！）東京まで電車に乗って先生と子どもたちだけで遠足に行くなんて本当に驚きです。でも、実際に行けてしまうなんて、普段の保育の中で培ってきたものがあるからこそ、できることだなあとと思います。子どもにとっては大きな自信になるし、一生の宝物になりますね。こんな経験ができる幼稚園は聞いたことがないので、富士見に入れてよかったなあとつくづく思いました。 先生方は遠足の間、つねに気配り目配りをして大変だったことでしょう。とても感謝しております。ありがとうございました。
Iさん	家ではなかなか実現しない電車での外出。園で遠足が電車利用なので子どもは（兄ともに）大喜びです。電車、公共のマナーも身につけ、話して教えるのはちがって確実です！大人と違って疲れをためない子どもの体力にもビックリです。 遠足の思い出として、一品お土産を買って帰ってくるのもふじみならではですね。ただ行って帰ってくるだけでも体験する内容としては大充実+さらにお土産で子どもの話はずみずみし、記念にもなります。（友だちと同じものを買ったという喜びもあるようです） 親としては「いらないでしょ」と却下してしまいそうです。
Oさん	ふじみの遠足、やっぱり親元を離れていく遠足はいろいろ記憶に残るようです。水族園にいた魚を身振り手振りで教えてくれます（名前はあいまいですが）。家族で水族園に行ってもそこまで見ていないような気がします。 小学生になった二人の子どもたちもふじみの遠足は大好き。いつも「行く！」とひとつ返事でかえってきます。家族で行くよりスケジュールがたった遠足は子どもたちにとってとても楽しいようですね。わがままも言えませんし（笑）。 心配なことがまったくないわけではありません。今の事件などニュースを見ると、「誰もでもよかった」など自分勝手な人が事件を起こすことが多くなってきているので…。 これまでの遠足で事故などがない実績を信用して行かせているのもあります。でも一番は子どもたちで行った遠足はとっても楽しい。頑張って最後まで行ってこられると、心の中に残るからだだと思います。 先生方には本当に感謝です！いつも「3人」連れて行ってくださってありがたいです。

<年少組>

Iくん	ふじみの遠足はとても魅力的だと思います。 地元が茨城だと、バスで行ける距離に遠足に行くのも楽しいとは思いますが、東京に行くことで、世の中はとても広く、こんなにたくさんの人たちが生活をしていて、動いている、ということを知る一つの経験にもなると思います。ずっと茨城からでなかった子が、ある程度大きくなった時に東京へ行き、圧倒され、ひるんでしまう、ということもあるのではないかな、と考えます。小さな時から多くの経験ができていろいろなことを知り勉強できる東京遠足は大賛成です。遠足のスケジュールができていながらも子どもたちが行ってみたいからと急にコースを増やしてしまうところも、とても心に残る嬉しいことで、良いと思います。
-----	--

<卒業生>

Oくん	電車に乗って子どもたちと先生だけで東京に行く遠足は、彼にとっても貴重な経験です。まして小学生になったので、小さい子の面倒をみるよう指導していただけましたら幸いです。今回（平成21年7月4日の東京遠足）は同学年の子がいたのでとても楽しめたようです。 このような案内を卒業後も届けていただければありがたいです。
-----	--

10. 気づき

この写真は、平成20年度卒業生の男児数人が年長組の時に描いた「地図のようなもの」である。



この「地図」を教室内で偶然見つけたとき、この作品そのものに対する感動とともに、子どもの「科学する心」について思いを巡らせることとなった。この絵が生まれた理由を保育者はいくつでも列挙することができるだろう。何かが生み出された後なら、私たち大人は様々な表現を駆使して、もっともらしい解説を付すことができるだろう。

そこでふと考える。少なくとも保育者は、何かが生み出される前のことについて関わる存在であり、これから（未来に）何かが生み出されるように支援し期待する存在ではないか。科学する心を論じる必要性を認識しつつも、結果としてあるいは解釈として捉えた科学する心ではなく、理解しやすいように順序立てられた科学する心でもなく、実際に子どもとふれあう現場の保育者にとっては、子ども一人ひとりの混沌とした漠とした可能性のかたまりのようなものを感じとることがスタートであり、目標であり、そのかたまりに対して様々な機会をとおして無条件かつ期限の定めなく働きかけ続けることが本質的な役割ではないか、と。

さて、今回の考察を通じて、重要と思われるいくつかのポイントに気づくことができた。

- ・東京遠足にかぎらず、ある行事や活動を単年度ではなく複数年にわたって考察すると、新しいことを発見できる。
- ・複数年にわたって考察するために最も役に立つ情報の一つは、クラスだよりである。
- ・クラスだよりの内容は担任の熱意や個性がくっきりと浮かび上がる。
- ・クラスだよりは、文章の上手い下手ではなく、担任の観察力、見方・捉え方・考えの方が大切。観察力のあるおたよりを読むと、時間の経過にかかわらず、その時の子どもたちの様子が手に取るようになる。
- ・保護者の意見や感想は、今後の内容改善に役立つだけでなく、保育者のやりがい、やる気を高める効果も持っている。

各学年のおたよりを東京遠足という共通項で一定の時間幅で見つめ直してみると、創立以来当園が目指していることの本質のようなものを改めて確認することができた。あえて「本質」とは言わない。目に見えない教育資産として、しっかりと守っていくべき何か、という意味での「本質のようなもの」。そこには保育者の子どもに対する思いや眼差し、親の愛情や当園幼児教育への理解と協力、そして何よりも子どもたち一人ひとりの生き生きとした表情や行動が凝縮されているような気がする。

日々の生活を通じて子どもなりに気づくこと、納得すること、疑問に思うこと、こだわること、そういう小さな積み重ねや繰り返し、子どもたちの心と体を通じていわゆる「科学する心」として芽生え、いつかどこかで花開く可能性を持つということを信じた。このようなゆるやかで先を見通した、信頼感にもとづく見守りの姿勢が、現場の保育者に求められているのではない。さらに、保護者の意見や感想を読むと、同じような態度や考え方が、親の側にも必要とされている、あるいはすでに実践されていることに気づかされた。保育者は親ではないし、親は保育者ではないが、子ども一人ひとりの持つ可能性に驚嘆し、それを心から信じて支援するというその一点において、両者の立場に違いなど存在しない。今回の考察を通じて、枠にはめた限定的な体験に甘んじることなく、少しでも物事の本質に触れるような生の体験を、親と子どもたちと保育者がそれぞれの立場で継続的にともに楽しむことの大切さを改めて感じる事ができた。

11. 課題および今後の方向性など

富士見幼稚園教頭・宮田絹子

私は当園に勤めて29年目になる。奉職した昭和56年、茨城県から出たことのない当時の私にとって、東京遠足はまさしく海外旅行のようだった。遠足地を5回くらい下見して、電車の乗り降りの位置、トイレがどこにあるかの確認、見学の順路など必死に調べたがそれでも不安だった。園長やベテランの先輩先生が誘導してくれて、担任である私は園児たちと同様、必死でついていき、見るものすべて子どもの目線でいっしょになって感動していたように思う。園長は遠足地のまわりの状況や、もし事故に巻き込まれた時のために別の路線や宿泊先、病院とのコンタクトもとってあって、どんなことがあっても対応できるよう万全を期している。それは開園当初（昭和52年）から今にいたるまで変わりが無い。私たち保育者は、園長にしっかりと守られながら、どこに連れて行ってあげるとよいか、何を体験させたいか、何を見せたいかなど、資料を探したり自分の目で見に行ったりしていた。

園の方針としてこれまで実施してきたが、私は、当園での日々の生活体験を試す場として、地域社会へ出向いていく、実社会の中で学ぶことは、子どもたちにとって大きなステップになるし、保育者も今後、何に力を入れたらよいか、個人やクラス集団としての新たな目標が見いだせる大切な実習の場だと実感している。車の運転免許取得でたとえと、教習所から路上での教習となり教官に見守られながらも自分で実際に運転する、これなしでは免許はもらえない、これと同じように、当園にとっても、親の付き添いなしの、先生と子どもたちだけの東京遠足なくして「ふじみっ子」としての卒業はあり得ない、と今は思っている。

また、この遠足は親の理解と協力なくしてはあり得ない。親の、子を思う心がなくてもあり得ない。「今ごろは上野かな?」「パンダ見られたかな?」「泣いてないかな?」「迷子になってないかな?」「お弁当、ちゃんと食べたかな?」「トイレに行ったかな?」「もうそろそろ電車に乗るね…」と、子どものことを思う親の心があってこそ、子どももまた、親のありがたさを感じて帰てこられる。

今後、この遠足を続けていくにあたり、いくつかの課題がある。まず、少子化の影響で一人っ子が多くなっていること。これに加えて、核家族化により祖父母との交流が少なくなり、母親一人で育児書を片手に必死で子育てするあまり、子どもをしっかり守りすぎてしまっているケースが年々増えている。幼稚園に子どもを入れて、他の子どもを見たり、お母さん同士の交流を持ったりするようになり、少し肩の荷が下りる人もいる一方で、保育年数が短いとそこまできず、親離れ子離れの一步が踏み出せない保護者もいる。結局、子どもを遠足に出せない、母親がいっしょについてきてしまうこともあった。クラス全体が遠足で盛り上がり、感動をいっぱいついで帰ってくる、そしてその体験が、その後のあそびや課題活動へとつながっていく中、遠足に参加できなかった子は一步あるいは2歩遅れた感じとなり、クラスの流れにうまく乗れないという悪循環を起してしまう。当園に入園する前の段階で、当園の教育方針や活動内容をしっかりとご理解いただきたいと思うが、両親とのコミュニケーションをとっていくのがとてもむずかしくなっている。

もう一つの課題は、家庭のしつけについて。年少組（3歳児）に入ってくる子のほとんどがオムツをしていたり、食事のマナー（座って食べる、箸を持つ、こぼさず食べるなど）ができていなかったり、入園の直前までベビーカーに乗せていて足腰がしっかりしていない、「ありがとう」「ごめんね」「貸して」あるいは順番を待つなど、初歩的な社会性がしつけられていないなど、幼稚園に入ってから家庭のしつけを一つひとつ教えていかななくてはならない現実がある。そうになると遠足に行く時期も今までより遅くなり、遠足地も限られてしまうこととなる。兄弟の多い家族の場合、「お兄ちゃんの時分は横浜遠足に行ったのに、弟のクラスは行かないのですか?楽しみにしていたのに…」という状況も生まれている。

外部要因としての問題としてあげられるのが、「世の中の目」である。社会勉強に出ている子どもたちに対して、必要以上にきびしい目で見たり、子どもにむかってヒステリックに怒鳴ったりする人もいる。一方、電車内で必要以上に子どもにすり寄ってくる人もいる（その時はすみやかに席を移動して対処）。これまでにない凶悪犯罪が頻繁に発生している昨今、より厳重な警戒心を持つことは必要不可欠となっている。もう一つは、新型インフルエンザなど、感染力の強い病気の予防対応策も重要である。園内では子どもたちは非常に健康的な生活をしているので、年長組になると体力がついてほとんどの子どもが休まなくなるが、東京方面へでかけるとなると、電車内や行き先の施設内では人の密集度が高いため、十分な注意が必要とされてくる。

また、電車の事故や故障などによる遅延の問題もある。これまで何度か、15分～1時間程度の遅れを経験したが、適宜適切に対応してきた。電車を降ろされ線路を歩いて次の電車に乗り継いだこともあるし、車内に30分以上缶詰と状態となり待たされたこともあった。今後は地震や火災など、突然の災害に巻き込まれた時の引率者の共通理解や現場での臨機応変な対応、確実な情報収集など、子どもの安全確保についてさらに注力することが求められている。

なぜこれほどまでに東京遠足にこだわるのか? それは、この遠足だけではなく、当園の生活の一つひとつが常に本物を見る・触るという体験教育だからである。園外に出ればさらにその体験の質と量は倍増する。本物の電車に乗れば東京までの時間や空間を体で感じ取ることができる。動物や魚たちも、本物を見たり触ったりすることにより五感で感じ取ることができる。本物のお芝居を観れば役者さんの声や動き、そして心意気がびんびん伝わり、感動する。

本物体験とおとした教育は、子どもたちに夢と感動を与える。夢は、それを実現させようと工夫する力につながり、感動は、自分もそうありたいという生きる力につながっていく。「生きる力」＝「科学する心」だと確信している。

もうこれ以上できないと思うくらい必死で保育をしていると「限界だ〜!」と感じる先に光が見えてくる。子どもたちの心がぐんと伸びて、親も感動する。「ありがとう」の一言に私たち保育者は夢と希望を持って日々の保育に励んでいる。そういう好循環を実現する原動力が、感動をもたらす本物体験教育であることを忘れてはならないと思う。

富士見幼稚園園長・鮎澤伊江

今や大都会は変化の連続である。テレビやパソコンなどで田舎にいても都会の様子は映し出されるが、五感をとおしての都会を感じることはできない。自分の五感で感じ取る都会は、子どもの体に多くのことを染みこませる。例えば、本年7月の東京遠足で見た実物大ガンダムの場合、何度テレビで見たとしても、現地の迫力ある本物ガンダムを感じることはできない。そういう原体験こそ、科学する心の芽生えの出発点であるような気がする。自分の目で確かめる遠足は、子どもにとって一生忘れることのできないものとなる。その一つひとつが、いつの日か、科学する心の芽生えとして育って行ってほしい。

先生と子どもの努力の結晶が東京遠足を成功させ、終わったあとの何とも言えない爽やかさのようなものを、先生たちも子どもたちも、帰りを待つ保護者も、実感として共有する。そして、本物を見てきたという体験は、将来、科学的な好奇心の第一歩となる。

この東京遠足は保護者の方々の協力があってはじめて実現できるものだが、都会や電車内の雰囲気はこの30年で様変わりしたのも確かである。電車内でのマナーの変化、頻発する人身事故などによる電車の遅延などを考えると、この遠足が見直しの時期にさしかかっているのではないかと認識しつつ、少しずつ改善を重ねながらできる限り継続していきたいと考えている。

東京遠足は、目的地の十分な下見と十分なキャリアがないと円滑に進めることはできない。保育者と園長の意欲、遠足を楽しませる余裕や経験に裏打ちされたたたかきはもちろん、日々の保育における子どもたちの生活能力や運動能力、順応性、生活態度などを的確に見極めつつ、さらには参加者全員の精神と体力、チームワークが満たされた時、この東京遠足が醸し出す教育的な「後伸び」が培われると信じている。

ふと思い出す。年長組のRちゃん。今年6月のライオンキング遠足で、生のお芝居の迫力に怖くて泣いてしまった。ところがこの夏休み、Rちゃんの祖父母が「私も行きたい」ということになって、再度、ライオンキングを観劇することになった。1回目は泣いていてよく分からなかったことが、2回目になると「キリンは大変だね」「大きくなったらライオンキングに出たい」という感想とともに、歌もうたえるようになった。Rちゃんのライオンキングへの憧れに対して母親は「ママ、応援するよ」と言ってくれたという…。

子どもはみんな、好奇心旺盛で多感な時期を過ごす。好奇心の塊のようなものが、大人になるまで消えないような人生を送って欲しい。そういう意味で、東京遠足の経験は、子ども時代を思い出すための良いきっかけとなるかもしれない。自身の好奇心を掘り下げていく時、科学の芽生えが生まれ、それが新たな発見や発明につながっていく。東京遠足という大都会における園外保育は、子どもたちに科学の芽生えを植え付けている。このような希有な体験を保育の中で体感できる「ふじみっ子」の心の底には、きっと、決して目減りしない教育財産が静かに積み重なっている。「後伸び」とは、その積み重ねがどこかのタイミングで発現することだと考える。科学の種は、目先の枝葉末節を飛び越えて、こんなふうに着いていくと確信している。

以上のことを念頭に置きながら、今後の基本的な方向性としては、

- ①保育者の、子どもを受けとめる力と気づきをどのように充実・発展させるか
- ②保育者の感受性を向上させ、保育者が、日常の保育における事象を「科学する心」に結びつけることができるようになるための園内研修の実現

などを中期的な目標の一つとして検討・実施・評価し、少しずつ改善を加えながら、一定の成果を得た時には、それまでの経緯や手法、課題などを広く公開する予定である。